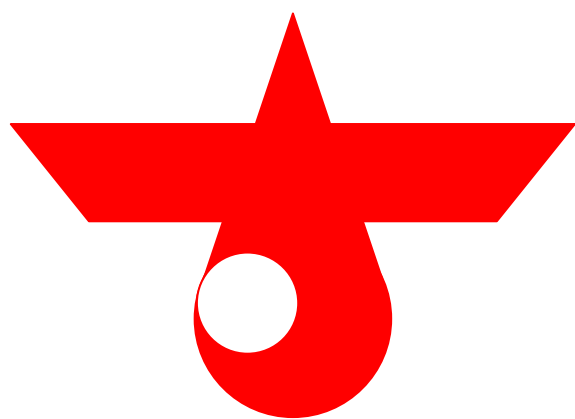


平成22年版

# 消防年報



千歳市消防本部

# 千歳市民憲章

## 千歳市のシンボル

世界をつなぐ 北の大空。  
千歳川の 清い流れ。  
開拓 ここに一世紀。

私たちは、誇りある千歳市民です。  
郷土の発展と、お互いのしあわせを  
願い、この憲章をかかげて、力強く  
前進をつづけます。

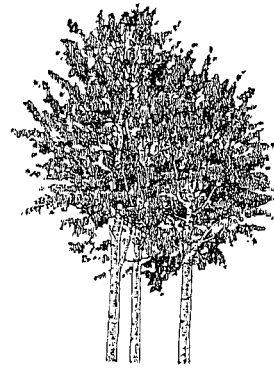
1. 心身をきたえ、仕事にはげみ、  
明るく 若々しい まちにしましょう。

1. 自然を愛し、季節に親しみ、  
快く 楽しい まちにしましょう。

1. きまりを守り、力を合わせて、  
美しく 住みよい まちにしましょう。

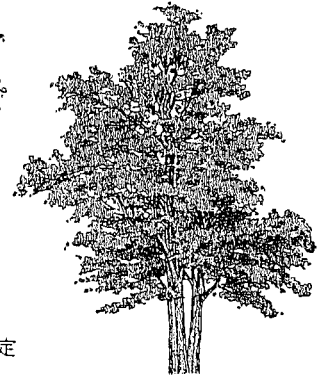
1. 年よりを敬い、子供の夢をはぐくみ、  
温かく 平和な まちにしましょう。

1. 文化を育て、希望にみちた、  
豊かな おちついた まちにしましょう。  
(昭和 54 年 7 月 1 日制定)



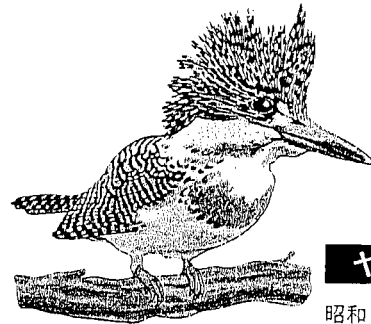
シラカバ

昭和 43 年 4 月 1 日制定



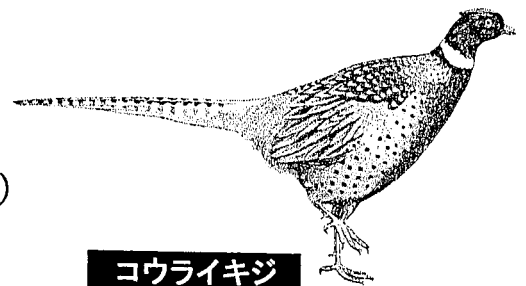
カツラ

昭和 61 年 4 月 1 日制定



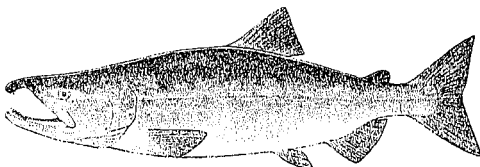
ヤマセミ

昭和 61 年 4 月 1 日制定



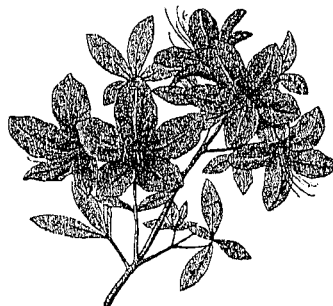
コウライキジ

昭和 61 年 4 月 1 日制定



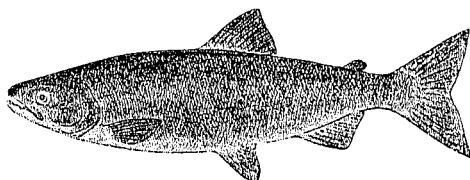
サケ

平成 8 年 11 月 1 日制定



ツツジ

昭和 61 年 4 月 1 日制定



ヒメマス

平成 8 年 11 月 1 日制定



ハナショウブ

昭和 61 年 4 月 1 日制定

# は し が き

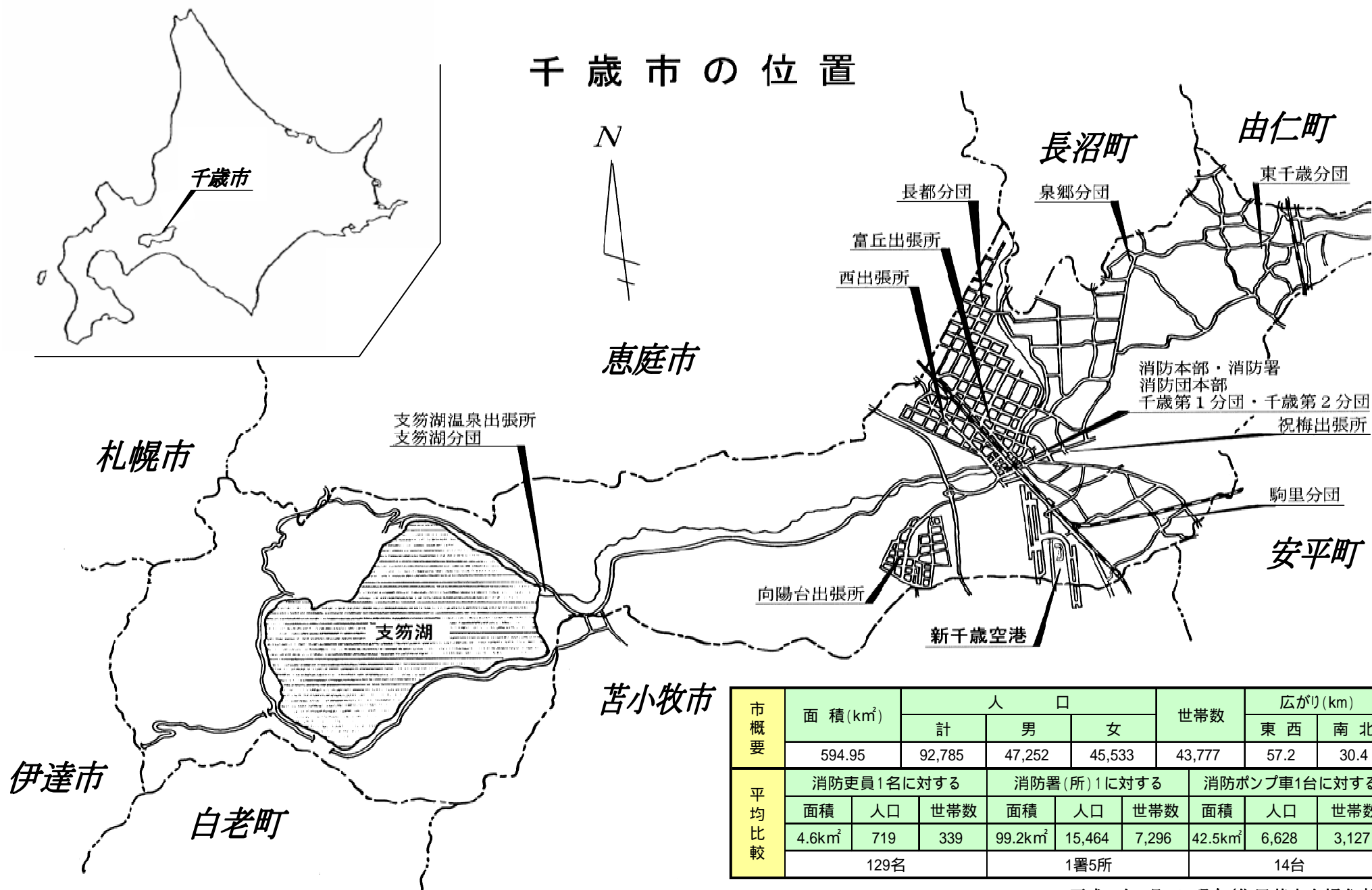
本書は、当市の消防行政を紹介するために平成22年4月1日現在の消防現勢(一部5月1日現在)と平成21年中の火災・救急統計に基づく当市消防の火災・救急等の災害活動の実態を収録したものです。

消防関係者はもとより、あらゆる方面の方々にご活用いただければ幸いです。

平成22年 6月

千歳市消防本部

# 千歳市の位置



市概要	面積(km <sup>2</sup> )		人口			世帯数	広がり(km)		
	計	男	女	計	東	西	南	北	
	594.95	92,785	47,252	45,533	43,777	57.2	30.4		
平均比較	消防吏員1名に対する			消防署(所)1に対する			消防ポンプ車1台に対する		
	面積	人口	世帯数	面積	人口	世帯数	面積	人口	世帯数
	4.6km <sup>2</sup>	719	339	99.2km <sup>2</sup>	15,464	7,296	42.5km <sup>2</sup>	6,628	3,127
	129名			1署5所			14台		

平成22年4月1日現在(住民基本台帳参考)

# 目 次

## 沿 革

千歳消防の沿革…………… 1

## 総 務 編

消防関係施設一覧…………… 12

消防機構図…………… 13

職員配置状況…………… 14

職員年齢状況…………… 15

職員勤続年数…………… 15

団員実員状況…………… 16

団員年齢状況…………… 16

団員勤続年数…………… 16

消防財政…………… 17

各種資格取得状況…………… 18

職団員研修派遣予定…………… 19

## 警 防 編

消防車両配置状況…………… 20

小型動力ポンプ配置・性能…………… 20

消防車両等の性能…………… 21

ホース保有状況…………… 22

化学消火薬剤等備蓄状況…………… 22

中和剤備蓄状況…………… 22

町名（地区）別水利状況…………… 23

緊急通信指令施設構造図…………… 25

通信施設一覧表…………… 26

消防車両出動状況…………… 26

月別火災状況…………… 27

地域別火災状況…………… 28

原因別火災状況…………… 29

時間別火災件数…………… 30

用途別火災状況…………… 31

初期消火状況…………… 31

過去5年間の火災1件あたりの人口と損害 …… 32

過去5年間の人口1万人あたりの火災状況 …… 32

過去5年間の主なる原因…………… 33

年別火災状況…………… 33

## 救 急 救 助 編

救急活動状況…………… 34

月別救急出動状況…………… 34

救急出動事故別比率…………… 35

救急傷病程度別比率…………… 35

事故種別における世代別搬送人員…………… 36

曜日別搬送人員…………… 37

収容所要時間別搬送人員…………… 37

医療機関別搬送人員…………… 38

医療機関別転院搬送件数…………… 39

救急隊員実施の応急処置件数…………… 40

応急手当普及啓発体系…………… 41

受講対象別応急手当普及啓発活動状況 …… 42

年別応急手当普及啓発活動状況…………… 42

月別救助出動状況…………… 43

発生場所別救助出動状況…………… 43

## 予 防 編

建築同意状況…………… 44

過去5年間の年度別建築同意事務…………… 44

町名別建築同意状況…………… 45

消防法施行令別表第1の同意状況…………… 46

消防用設備等設置届出状況…………… 47

各種届出受理状況…………… 47

対象物別査察指導状況…………… 48

危険物施設分布状況…………… 49

## 委 嘱 ・ 協 力 団 体

委嘱団体・消防協力団体…………… 50

少年消防クラブ結成状況…………… 50

千歳市防火委員…………… 51

千歳危険物安全協会…………… 52

千歳石油燃烧機器協議会…………… 53

千歳市少年消防クラブ育成連絡協議会 …… 54

幼年消防クラブ…………… 55

## そ の 他

千歳市防災学習交流センターについて

浴

革

## 千歳市消防の沿革

年 月	事 項
大正11年 8月	・街が徐々に発展し、札幌、苫小牧を結ぶ国道沿いに約55戸の家屋が建ち並び消防機関の設置が痛感され、山崎友吉、吉野藤五郎ら有志が相図り、組頭中川種次郎村会議員以下若人35名で組織し、「千歳消防組」を創設する。装備は纏1本、ドイツ式腕用ポンプ1台、ホース20本、鳶15丁等であった。
大正12年 5月	・林野局から原木の払い下げを受け、さらに有志の寄付によって木造平屋建の「番屋」1棟を役場隣地に建設する。
昭和6年 6月	・規律訓練優秀につき「金馬れん」を贈られ表彰を受ける。
昭和10年 2月	・鉄骨製「火の見ヤグラ」を建設する。
昭和11年 4月	・組頭中川種次郎辞任し、渡部栄蔵村会議員が2代目組頭に就任する。
10月	・陸軍特別大演習及び地方行幸支援に対し、北海道庁長官から感謝状を授与される。
昭和13年 12月	・市街地の繁栄に伴い消防ポンプ自動車の購入の要望が高まり、予算の一部が村議会で可決、大半は有志の寄付金により最新鋭車(フォード38年式)1台を購入する。
昭和14年 4月	・消防制度の改正により警防団に改組、団員の増強を図り各地域にも分団を設けて防空を主眼とし、国内防衛の一翼を担った。 ・初代警防団長として渡部栄蔵就任する。
昭和19年 4月	・空襲火災と防空監視強化のため常備員2名を採用配置する。
昭和21年 5月	・常備員10名増員、進駐軍兵舎等の警備にあたる。
8月	・常備員さらに13名増員、進駐軍兵舎等の警備にあたる。
9月	・常備消防部長に山本加藤就任する。
10月	・元日本海軍で使用した消防ポンプ自動車及び三輪ポンプ自動車各1台財務局から払い下げを受け、市街地に配置する。
昭和22年 8月	・消防団条例制定、旧警防団を1団2分団制に改組し団長以下100名で組織する。常備員は全員進駐軍要員に身分変更のうえ基地内勤務となる。
10月	・進駐軍駐留に伴い火災多発の傾向から、市街地に常備制を取り、常備員1名を配置する。
11月	・常備員1名増員、2名となる。
昭和23年 5月	・常備員2名増員、4名となる。
10月	・消防本部設置、初代消防長渡部栄蔵以下6名(常備員4名)となる。
昭和26年 4月	・初代消防長渡部栄蔵退任し、2代目消防長として山崎友吉町長(事務取扱)就任する。 ・常備員2名増員、6名となる。
昭和27年 4月	・水槽付消防ポンプ自動車1台購入し本部に配置する。
6月	・消防技能競技大会において、成績優秀により北海道石狩支庁から賞状を授与される。
昭和28年 10月	・東雲町2丁目に鉄筋ブロック造平屋建の新庁舎が落成する。 ・広報車として千歳警察署から払い下げの中古車ウイリス・ジープ1台を配置する。
昭和29年 1月	・職員3名増員、9名となる。
4月	・職員1名増員、10名となる。
9月	・職員2名増員、12名となる。 ・水槽付消防ポンプ自動車1台購入し、本部に配置する。
11月	・水道事業開始に伴い、消火栓2基が新設される。また、庁舎横に高さ10mの鉄骨製望楼が完成し、夜間のみ立しょう開始する。 ・5日3時30分頃、幸町2丁目12番地から出火、職団員をはじめ駐留軍消防隊などの応援を得て敢闘するも防火用水路は工事中のため断水、17棟全焼する。

年 月	事 項
昭和30年 3月	・ 小型動力ポンプ(可搬式) 1台購入し、本部に配置する。
4月	・ 職員2名増員、14名となる。
5月	・ 昼夜連続の望楼勤務を開始する。
9月	・ 2代目消防団長に前田政太郎就任する。
昭和31年 2月	・ 11日4時26分頃、幸町1丁目16番地から出火、錦町2丁目の一部まで延焼する。札幌、苫小牧両市をはじめ、隣接市町村から消防車19台の応援を得て消火に当たるも170棟焼失、726名の被災者を出した。
4月	・ 消防委員会を開催し、消防力整備3か年計画を作成する。
10月	・ 庁舎の一部を増改築、消防ポンプ自動車(小型動力ポンプ積載) 1台購入し、本部に配置する。
	・ 火災防ぎょ活動に対する功績により、北海道消防協会長から表彰状を授与される。
11月	・ 火災防ぎょ活動に対する功績により、北海道知事から表彰状を授与される。
昭和32年 3月	・ 適切なる火災防ぎょ活動に対する功績により、国家消防本部長から消防本部及び消防団が表彰される。
4月	・ 職員3名増員、20名となる。
昭和33年 5月	・ 職員1名増員、21名となる。
	・ 広報車(トヨタジープ) 1台購入する。
12月	・ 高さ27mの鈴木式望楼と鉄筋コンクリート造一部2階建て延675㎡の庁舎が東雲町2丁目、旧千歳川埋立地に落成移転する。
昭和34年 1月	・ 泉郷自治消防団に小型動力ポンプ配置する。
4月	・ 3代目消防長(事務取扱)に高橋為次助役就任する。
5月	・ 消防長職務代理者に消防司令岩本千年男就任する。
7月	・ 職員2名増員、23名となる。
10月	・ 機構改革を行い、消防本部を総務・警防・予防の3係制とし、1消防署を設ける。
昭和35年 2月	・ 成績優秀機関として日本消防協会長から「竿頭綬」を授与される。
4月	・ 職員3名増員、26名となる。
昭和36年 2月	・ 消防ポンプ自動車1台購入し、署に配置する。
5月	・ 1日13時55分頃、幸町5丁目12の3番地から出火、さらに飛び火により千代田町6丁目の日通倉庫に延焼、農協など延30棟を全焼し、56世帯が被災する。
7月	・ 職員3名増員、29名となる。
9月	・ 4代目消防長(常勤の専任消防長としては初代)に岩本千年男就任、署長を兼務する。
11月	・ 電話が自動式に切り替わり、火災専用電話設置される。
昭和37年 4月	・ 職員2名増員、消防長以下31名となる。
7月	・ 日本損害保険協会から消防ポンプ自動車1台の寄贈を受け、損害保険号と命名し、署に配置する。
昭和38年 4月	・ 職員2名増員、33名となる。
8月	・ 都市等級調査の結果、5等級となる。
9月	・ 小型動力ポンプ1台購入し、東千歳地区に配置する。
昭和39年 2月	・ 日本消防協会から消防団に対し、「表彰旗」授与される。
4月	・ 消防団条例を改正、定数を50名から120名に増員し、東千歳分団及び支笏湖分団を新設する。
9月	・ 小型動力ポンプ1台購入し、支笏湖分団に配置する。
11月	・ 職員2名欠員補充。
12月	・ 水槽付消防ポンプ自動車1台購入し、署に配置する。
昭和40年 4月	・ 長都分団及び泉郷分団を新設する。
	・ 職員1名増員、34名となる。



年 月	事 項
6月	・美笛分団を新設する。消防団は、団員定数 200 名、1 団・6 分団を編成し、人員の整備を完了する。
7月	・消防長兼務の署長を専任とし、2 代目消防署長に須川正直就任する。
9月	・小型動力ポンプ 1 台購入し、長都分団に配置する。
10月	・集中豪雨及び台風 24 号本道上陸のため、職員が出動し、災害対策本部の下に活動する。
11月	・王子製紙(株)及び千歳鉱山(株)から小型動力ポンプなどの寄贈を受け、支笏湖分団及び美笛分団に配置する。
昭和41年 4月	・消防専用無線電話装置を新設し、無線業務開始する。
5月	・職員 2 名増員、36 名となる。
9月	・広報車更新する。
9月	・救急車(日本消防協会補助)が 9 月 30 日署に配置され、10 月 1 日から業務を開始する。
昭和42年 4月	・職員 3 名増員、39 名となる。
7月	・本部に次長制を採用、初代次長に須川正直就任(署長を兼務)する。
9月	・小型動力ポンプ 1 台購入し、泉郷分団に配置する。
10月	・東千歳分団に機械置場を建造する。
	・消防本部庁舎を増築する。
	・支笏湖畔に防火水槽(40 m <sup>3</sup> 級)を設置する。
昭和43年 4月	・職員 4 名増員、43 名となる。
8月	・支笏湖分団に機械置場を建造する。
昭和44年 3月	・化学消防車を購入し、署に配置する。
4月	・職員 4 名増員、47 名となる。
9月	・朝日町 8 丁目に防災水槽(40 m <sup>3</sup> 級)を設置する。
	・泉郷に防災倉庫(泉郷分団機械置場)を建造する。
	・東千歳分団、長都分団、中央地区にサイレン塔を設置する。
10月	・青葉丘に防火水槽(40 m <sup>3</sup> 級)を設置する。
11月	・元千歳市消防団副団長荒川作次氏「勲六等単光旭日章」を受章する。
12月	・元千歳市消防団副団長荒川作次氏(昭和 44 年 3 月退職)より小型動力ポンプ 1 台の寄贈を受け、美笛分団に配置する。
昭和45年 3月	・「千歳消防の歌」を作成し、発表する。
4月	・職員 4 名増員、51 名となる。
	・千歳市消防団長前田政太郎氏「勲五等瑞宝章」を受章する。
	・消防本部に総務・予防の 2 課制を採用する。
9月	・消防本部庁舎増築。
	・千歳市消防団長前田政太郎氏から小型乗用車 1 台の寄贈を受け、消防本部に配置する。
10月	・長都分団に機械置場を建造する。
11月	・支笏湖、協和地区にサイレン塔を設置する。
12月	・北信濃に富丘出張所を開設、職員 6 名、車両 1 台を配置する。
	・屈折梯子付消防ポンプ自動車(16m級) 1 台購入し、署に配置する。
昭和46年 3月	・水槽付消防ポンプ自動車(3号車)更新する。
4月	・職員 4 名増員、55 名となる。
6月	・広報車更新及び作業車購入する。
8月	・東丘地区にサイレン塔を設置する。
9月	・美笛分団に機械置場を建造する。
11月	・水槽付消防ポンプ自動車(2号車)更新する。
	・庁舎裏に訓練塔(鉄骨 15m)を設置する。
12月	・高速道路の開通に伴い、日本道路公団から救急自動車 1 台の無償譲渡を受ける。
昭和47年 2月	・札幌オリンピック冬季大会にて恵庭岳滑降競技場の警戒その他の業務で職員

年 月	事 項
	を派遣する。
昭和48年 4月	・職員4名増員、59名となる。
	・消防署富丘出張所に「愛の鐘」一式贈呈される。
7月	・千歳市消防創設50周年記念式典行う。
10月	・防火水槽(40 m <sup>3</sup> 級)を支笏湖畔に2基、千歳駅西口に1基設置する。
11月	・釜加地区にサイレン塔を設置する。
昭和48年 1月	・千歳市内に危険物安全協会発足する。
3月	・消防庁長官より、「竿頭綬」を受ける。
4月	・職員4名増員、63名となる。
5月	・日本損害保険協会より消防ポンプ自動車1台寄贈を受ける。
9月	・30日2時30分頃、幌美内の支笏湖プリンスホテルから出火した火災は市街地所在の署から火災現場までの距離であったために全焼となり、支笏湖分遣所の設置が検討された。
昭和49年 11月	・支笏湖分団に消防ポンプ自動車を配置する。
4月	・職員4名増員、67名となる。
9月	・消防署に技術係及び担当主任制度を設ける。
	・支笏湖分遣所落成(5月から職員1名派遣)する。
10月	・北海道防災総合訓練(市街地における航空機事故災害想定)を旧末広小学校跡地で実施する。
昭和50年 3月	・消防ポンプ自動車(9号車)購入する。
4月	・職員3名増員、70名となる。
6月	・事業推進に対する功績により、北海道消防協会長から感謝状を授与される。
7月	・婦人防火委員を10名に委嘱する。(第1期)
8月	・パシフィックエンタープライズ株式会社より積載車1台の寄贈を受ける。
	・北栄2丁目に防火水槽(40 m <sup>3</sup> 級)を設置する。
昭和51年 11月	・小型動力ポンプ付積載車1台購入する。
3月	・消防ポンプ自動車(8号車)更新する。
8月	・第1回少年消防クラブ北海道地区大会が当市において開催される。
10月	・全消会空港消防特別委員会が当市において開催される。
	・4代目消防長岩本千年男退任し、5代目消防長に須川正直就任する。
12月	・水槽付消防ポンプ自動車(1号車)1台購入する。
昭和52年 1月	・千歳危険物安全協会より広報車(2号車)1台寄贈を受ける。
	・消防署に副署長制を設ける。
3月	・大型水槽車(タンク容量10,000 ㍓)購入する。
4月	・職員4名採用(うち2名欠員補充)、72名となる。
	・婦人防火委員定員を10名増員し、20名に委嘱する。(第2期)
7月	・消防庁舎建設事業第1期分(躯体工事等)着工する。
8月	・第2回少年消防クラブ北海道地区大会が当市において開催される。
	・千歳ライオンズクラブより救助工作車の寄贈を受ける。
	・北栄1丁目に防火水槽(40 m <sup>3</sup> 級)を設置する。
12月	・千歳鉾山人員整理により美笛分団を廃団する。
昭和53年 3月	・駒里分団を新設する。
4月	・職員4名増員、76名となる。
	・作業車更新する。
8月	・第1回千歳地区少年消防クラブ総合大会が開催される。
9月	・支笏湖分団の消防ポンプ自動車更新に伴い、水槽付消防ポンプ自動車(7号車)を配置する。
	・日の出小学校の校庭内に防火水槽(40 m <sup>3</sup> 級)を設置する。
10月	・3代目消防署長に佐藤吉春就任する。
11月	・千歳市消防総合庁舎完成する。(鉄骨鉄筋コンクリート造2階建て床面積

年 月	事 項
昭和54年 2月	2,617.34 m <sup>2</sup> )
3月	・ 広報車更新する。
4月	・ 3代目消防団長に浅見恒松就任する。
7月	・ 職員3名採用(うち1名欠員補充)、78名となる。 ・ 婦人防火委員定員を10名増員し、30名に委嘱する。(第3期)
9月	・ 職員1名欠員補充。 ・ 北海道消防操法訓練大会ポンプ車の部に札幌地方支部の代表として出場し、成績優秀により北海道知事から賞状を授与される。
10月	・ 消防ポンプ自動車(6号車)を更新する。 ・ 末広8丁目及び住吉2丁目に防火水槽(40 m <sup>3</sup> 級)各1基を設置する。
昭和55年 4月	・ 職員4名増員、82名となる。 ・ 4代目消防署長に高橋五郎就任する。
昭和56年 10月	・ 高台5丁目及び新富3丁目に防火水槽(40 m <sup>3</sup> 級)各1基を設置する。
昭和56年 3月	・ 救急2号車更新する。
4月	・ 職員4名増員、86名となる。 ・ 婦人防火委員を30名に委嘱する。(第4期)
9月	・ 署長退任に伴い、消防長が署長兼務する。
昭和57年 10月	・ 信濃2丁目及び自由ヶ丘2丁目に防火水槽(40 m <sup>3</sup> 級)各1基を設置する。
昭和57年 2月	・ 成績優秀機関として消防庁長官から「表彰旗」を授与される。
4月	・ 職員1名欠員補充。
8月	・ 千歳ライオンズクラブより15人乗りマイクロバスの寄贈を受ける。
昭和58年 11月	・ 花園3丁目に防火水槽(40 m <sup>3</sup> 級)を設置する。
昭和58年 2月	・ 梯子車(41m級)を購入する。
4月	・ 職員7名採用(うち2名欠員補充)、91名となる。 ・ 婦人防火委員を30名に委嘱する。(第5期)
8月	・ 日本消防協会より広報車1台寄贈を受ける。
9月	・ 日本損害保険協会より消防ポンプ自動車1台寄贈を受ける。
10月	・ 2代目消防本部次長に北山真一就任する。 ・ 職員1名増員、92名となる。
12月	・ 広報車1台を購入する。 ・ 富丘4丁目及び北斗3丁目に防火水槽(40 m <sup>3</sup> 級)各1基を設置する。
昭和59年 4月	・ 職員4名増員、96名となる。
10月	・ 5代目消防署長に北山真一就任(次長が署長を兼務)する。 ・ 組織機構の改革に伴い、消防署に副長制を設け、警備・予防・技術・通信救急の4係制となる。
11月	・ 泉沢向陽台地区に向陽台出張所を開設、職員11名、車両3台を配置する。
12月	・ 水槽付消防ポンプ自動車1台を購入し、向陽台出張所に配置する。 ・ 備蓄倉庫兼車庫(117.82 m <sup>2</sup> )を庁舎裏に建設する。(石油貯蔵施設立地対策等交付金)
昭和60年 4月	・ 職員1名欠員補充。 ・ 元千歳市消防署長高橋五郎氏「勲五等瑞宝章」を受章する。 ・ 婦人防火委員定員を5名増員し、35名に委嘱する。(第6期)
6月	・ 第37回北海道消防大会を千歳市民文化センターにて開催する。(参集人員2,800名)
10月	・ 富士4丁目(40m <sup>3</sup> 級)及び臨空工業団地内(100m <sup>3</sup> 級)に防火水槽を設置する。(石油貯蔵施設立地対策等交付金)
12月	・ 水槽付消防ポンプ自動車(2号車)更新する。
昭和61年 1月	・ 型化学消防自動車1台購入し、署に配置する。

年 月	事 項
昭和62年	<p>4月</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・職員5名採用(うち3名欠員補充)、98名となる。</li> <li>・5代目消防長須川正直退任し、6代目消防長に北山真一、6代目消防署長に三谷宣儀就任する。</li> </ul> <p>11月</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・救急自動車(1号車)を更新する。(特定防衛施設周辺整備調整交付金)</li> </ul> <p>12月</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・広報2号車更新する。</li> </ul> <p>1月</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・清水町に防火水槽(100m<sup>3</sup>級)を設置する。(石油貯蔵施設立地対策等交付金)</li> </ul> <p>4月</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・職員3名増員、定員101名となる。</li> <li>・3代目消防団長浅見恒松退任し、4代目消防団長に細川誠一就任する。</li> <li>・婦人防火委員を35名に委嘱する。(第7期)</li> </ul> <p>7月</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1日19時52分頃、航空自衛隊千歳基地の覆土式屋外タンク貯蔵所(第4類第1石油類(JP-4))が落雷により出火した火災は、消防機関や各自衛隊を合わせ延人員206名、車両42台を動員した。</li> </ul> <p>10月</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・東千歳分団車庫を由仁町三川より当市幌加に移転新築する。</li> </ul> <p>12月</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・梅ヶ丘・桜木地区に防火水槽(40m<sup>3</sup>級)を設置する。</li> </ul> <p>昭和63年</p> <p>4月</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3代目消防本部次長に三谷宣儀就任(消防署長が消防本部次長を兼務)する。</li> <li>・組織機構の改革に伴い、消防本部に警防課、署に警備1課・警備2課・指導課を新設し、本部3課・署3課・2出張所・1分遣所体制となる。</li> <li>・元千歳市消防団長浅見恒松氏「勲五等瑞宝章」を受章する。</li> </ul> <p>11月</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・支笏湖分遣所に職員4名を配置し、隔日勤務体制となる。</li> <li>・広報1号車更新する。</li> </ul> <p>平成元年</p> <p>2月</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・水槽付消防ポンプ自動車(1号車)更新する。(石油貯蔵施設立地対策等交付金)</li> </ul> <p>4月</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・職員4名採用(うち1名欠員補充)、定員104名となる。</li> <li>・婦人防火委員を35名に委嘱する。(第8期)</li> <li>・元千歳市消防長岩本千年男氏「勲五等双光旭日章」を受章する。</li> </ul> <p>9月</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第44回国民体育大会(軟式野球)の開催に伴う消防警備を実施する。</li> </ul> <p>10月</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・広報車1台購入する。(西出張所用広報7号車)</li> </ul> <p>10月</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・消防用水路蘭越取水口改修により消防用水路が復旧する。</li> <li>・新川地区にサイレン塔を設置する。</li> </ul> <p>11月</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・組織機構の改革に伴い、指導課を日勤体制とする。</li> </ul> <p>12月</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・上長都地区に西出張所を開設、職員11名、車両2台を配置する。</li> </ul> <p>平成2年</p> <p>2月</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・水槽付消防ポンプ自動車(3号車)購入し、西出張所に配置する。(石油貯蔵施設立地対策等交付金)</li> </ul> <p>4月</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・6代目消防長北山真一退任し、7代目消防長に松浦堅治就任する。</li> <li>・向陽台出張所に水槽付消防ポンプ自動車1台配置(配置替)し、車両3台体制とする。</li> </ul> <p>7月</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・北海道消防操法訓練大会小型ポンプ車の部に札幌地方支部の代表として出場する。</li> <li>・小型動力ポンプ付積載車更新する。(東千歳分団)</li> </ul> <p>8月</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小型動力ポンプ付積載車更新する。(長都分団)</li> </ul> <p>11月</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・作業車更新する。(石油貯蔵施設立地対策等交付金)</li> <li>・新富1丁目及び自由ヶ丘4丁目に防火水槽(40m<sup>3</sup>級)各1基を設置する。</li> </ul> <p>平成3年</p> <p>2月</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・救助工作車 型を購入。(防衛施設周辺民生安定施設整備補助金)署に配置し、兼任救助隊を発足する。</li> <li>・西出張所に消防ポンプ自動車1台配置(配置替)し、車両3台体制とする。</li> </ul> <p>3月</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・富丘出張所を増改築する。</li> </ul> <p>4月</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・職員3名採用(うち1名欠員補充)、定員106名となる。</li> <li>・婦人防火委員の定員を5名増員し、40名に委嘱する。(第9期)</li> </ul> <p>8月</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・職員1名欠員補充。</li> <li>・組織機構の改革に伴い、本部予防課の主査を廃止し消防設備係を新設、消防署指導課を消防課に改め係を消防係、指導係とし、支笏湖分遣所を支笏湖温</li> </ul>

年 月	事 項
	泉出張所に改め職員 4 名体制とする。
9 月	・ 4 週 6 休制が実施され、消防本部及び消防署消防課が第 2 ・ 第 4 土曜日閉庁となる。
10 月	・ 支笏湖温泉出張所 1 名増員し、5 名体制となる。
11 月	・ 広報 6 号車更新し、白樺 2 丁目に防火水槽(40 m <sup>3</sup> 級)を設置する。(石油貯蔵施設立地対策等交付金)
12 月	・ 屈折梯子付消防自動車(25m級)購入する。(自治省消防庁補助金)
平成 4 年 3 月	・ 17 日 8 時 50 分頃、道央自動車道上り車線 30.4km 地点(上長都)から 29.2km 地点付近(恵庭市)までの区間で、約 1.2 km にわたり大型バス・トラック・乗用車等 186 台が連続して衝突し、死者 2 名・重軽傷者 108 名を出す多重衝突事故が発生する。
4 月	・ 職員 5 名採用(うち 1 名欠員補充)、定員 110 名となる。 ・ 次長兼務の署長を専任とし、7 代目消防署長に江平等就任する。 ・ 支笏湖温泉出張所長を日勤とする。 ・ 市長部局へ 1 名出向し、防災業務の事務を担当する。 ・ 向陽台出張所に消防ポンプ自動車(9 号車) 1 台配置(配置替)する。
7 月	・ 千歳市消防創設 70 周年記念式典行う。
11 月	・ 元千歳市消防本部主幹岩本功氏「勲六等瑞宝章」を受章する。
12 月	・ 泉郷地区に消火栓 2 基設置及び空気呼吸器 20 体購入する。(石油貯蔵施設立地対策等交付金)
平成 5 年 1 月	・ 広報 3 号車更新する。(石油貯蔵施設立地対策等交付金)
3 月	・ 救急自動車更新により準高規格救急自動車購入する。(特定防衛施設周辺整備調整交付金)
4 月	・ 職員 7 名採用(うち 1 名欠員補充)、定員 117 名となる。 ・ 7 代目消防長松浦堅治退任し、8 代目消防長に三谷宣儀、4 代目消防本部次長に神野寛就任する。 ・ 組織機構の改革に伴い、署警備 1 ・ 2 課通信救急係を廃止し救急救助係及び指令係を新設する。 ・ 北海道消防学校へ教官として職員 1 名派遣する。 ・ 婦人防火委員の定員を 10 名増員し、49 名(1 名欠員)に委嘱する。(第 10 期)
5 月	・ 第 46 回全国消防長会人事教養委員会を千歳市にて開催する。
6 月	・ 完全週休二日制が実施される。
9 月	・ 日本損害保険協会より水槽付消防ポンプ自動車 1 台寄贈を受ける。
12 月	・ 消火栓 8 基更新及び空気呼吸器 20 体購入する。(石油貯蔵施設立地対策等交付金)
平成 6 年 3 月	・ 消防緊急通信指令施設( 型)導入し、運用開始する。(自治省消防庁補助金) ・ 指揮本部車購入する。(特定防衛施設周辺整備調整交付金)
4 月	・ 職員 3 名採用(うち 2 名欠員補充)、定員 118 名となる。 ・ 組織機構の改革に伴い、本部警防課に防災企画係を新設する。 ・ 庁舎裏埋蔵文化財管理センターの移転に伴い、消防用資器材管理倉庫として建物引継ぎを受ける。(2 階建、延べ 458.25 m <sup>2</sup> )
7 月	・ 団本部に女性消防団員 5 名が採用される。
11 月	・ 泉郷地区の分団車庫兼倉庫及びサイレン塔を新築する。(石油貯蔵施設立地対策等交付金)
平成 7 年 3 月	・ 救急自動車更新により準高規格救急自動車購入する。(特定防衛施設周辺整備調整交付金)
4 月	・ 職員 2 名採用(うち 1 名欠員補充)、定員 119 名となる。 ・ 団本部に女性消防団員 5 名が採用され、10 名となる。 ・ 4 代目消防団長細川誠一退任し、5 代目消防団長に小柳重信就任する。 ・ 婦人防火委員の定員を 10 名増員し、60 名に委嘱する。(第 11 期)

年 月	事 項	
平成 8 年	9 月	・化学防護服(3着)購入する。
	10 月	・支笏湖温泉出張所 1 名増員し、6 名体制とする。
	11 月	・元千歳市消防署向陽台出張所長山崎清吉氏「勲六等単光旭日章」を受章する。
	1 月	・広報車 1 台更新し、向陽台出張所に配置する。(石油貯蔵施設立地対策等交付金)
平成 9 年	2 月	・大型水槽車(タンク容量 10,000 ㍓)更新する。(自治省消防庁補助金)
	3 月	・泉郷地区に防火水槽(40m <sup>3</sup> 級)を設置する。(石油貯蔵施設立地対策等交付金)
	3 月	・駒里分団の小型動力ポンプ付積載車を更新する。(石油貯蔵施設立地対策等交付金)
	4 月	・職員 8 名採用(うち 1 名欠員補充)、定員 125 名となる。
	4 月	・団本部に女性消防団員 1 名(欠員補充)が採用される。
	9 月	・救急救命士業務に伴う器具(除細動・気管内挿入管・輸液セット)及び訓練機材購入する。
	10 月	・8 代目消防長三谷宣儀退任し、9 代目消防長に神野寛就任(次長を兼務)する。
	10 月	・祝梅出張所準備室を新設、職員 2 名配置する。
	11 月	・元千歳市消防団長細川誠一氏「勲五等瑞宝章」を受章する。
	3 月	・東丘地区のサイレン塔を移転新築する。(石油貯蔵施設立地対策等交付金)
	3 月	・広報車 1 台(石油貯蔵施設立地対策等交付金)及び水槽付消防ポンプ自動車 1 台購入する。
平成 10 年	4 月	・職員 5 名採用(うち 2 名欠員補充) 定員 128 名となる。
	4 月	・支笏湖温泉出張所 1 名増員し、7 名体制とする。
	4 月	・5 代目消防本部次長に古源紘宇、7 代目消防署長江平等退任し 8 代目消防署長に金雅志就任する。
	4 月	・組織機構の改革に伴い、消防課を廃止し、警備課に指導係、警防課に主査を設ける。
	4 月	・流通地区に祝梅出張所を開設、職員 11 名、車両 3 台を配置する。
	4 月	・団本部に女性消防団員 3 名採用(うち 1 名欠員補充)、12 名となる。
	4 月	・婦人防火委員の定員を 10 名増員し、69 名(1 名欠員)に委嘱する。(第 12 期)
	8 月	・千歳市防災総合訓練(航空機災害想定)を泉沢臨空工業団地内で実施する。
	12 月	・北陽 3 丁目に耐震性防火水槽(60 m <sup>3</sup> 級)、協和地区にサイレン塔を設置する。さらに広報車 1 台更新し、消防署に配置する。(石油貯蔵施設立地対策等交付金)
	2 月	・消防ポンプ自動車 1 台更新し、向陽台出張所に配置する。(防衛施設周辺民生安定施設整備補助金)
	平成 11 年	3 月
4 月		・職員 5 名採用(欠員補充)、定員 128 名となる。
5 月		・団本部に女性消防団員 3 名採用、15 名となる。
6 月		・救急救命士による救急業務の本格運用を開始する。(1 隊)
6 月		・成績優秀機関として北海道消防協会から「表彰旗」を授与される。
11 月		・元千歳市消防長須川正直氏「勲五等双光旭日章」を受章する。
12 月		・原因調査用車両 1 台、消防用ホース 160 本(差し込み式)の更新と若草 3 丁目に耐震性防火水槽(60 m <sup>3</sup> 級) 1 基設置する。(石油貯蔵施設立地対策等交付金)
4 月		・5 代目消防団長小柳重信退任し、6 代目消防団長に大谷勇一就任する。
4 月		・9 代目消防長神野寛退任し、10 代目消防長に金雅志、9 代目消防署長に廣世平夫就任する。
4 月		・職員 1 名採用(欠員補充)する。
平成 12 年		4 月
	4 月	・元千歳市消防団副団長阿部常夫氏「勲七等青色桐葉章」を受章する。
	3 月	・業務帽(アポロキャップ式)を導入し、略帽を廃止する。
	3 月	・石油貯蔵施設立地対策事業として、支笏湖広報車 1 台、消防用ホース 170 本、

年 月	事 項
平成13年	<p>耐震性防火水槽(60<sup>m</sup>級・稲穂3丁目)1基を、防衛施設周辺民生安定施設整備事業として、消防ポンプ自動車(富丘ポンプ)1台を、空港環境整備協会助成事業として、人員搬送車(29人乗りマイクロバス)1台を更新整備する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・有珠山噴火に伴い、北海道広域消防相互応援協定に基づく応援隊を伊達市及び虻田町へ派遣する。(3月30日～5月8日 延79隊、188名)</li> <li>・職員3名採用(欠員補充)、定員127名となる。</li> <li>・組織機構の変革に伴い、消防本部に主幹(消防団担当)を配置する。</li> <li>・6代目消防本部次長に廣世平夫、10代目消防署長に古源紘宇就任する。</li> <li>・元千歳市消防団長小柳重信氏「勲六等単光旭日章」を受章する。</li> </ul>
	<p>1月</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・石油貯蔵施設立地対策等交付金事業として消防署広報車1台、消防用ホース160本、耐震性防火水槽(60<sup>m</sup>級・長都駅前4丁目)1基を、空港環境整備協会助成事業として水槽付消防ポンプ自動車(祝梅水槽)1台を更新整備する。</li> </ul>
	<p>1月</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・長都分団車庫及びサイレン塔を移転新築する。</li> </ul>
	<p>3月</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・元千歳市消防長(勲五等双光旭日章)故岩本千年男氏叙位(正六位)を授かる。</li> </ul>
	<p>4月</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・職員5名採用(うち2名欠員補充)、定員130名及び市長部局1名出向となる。</li> <li>・機構改革に伴い、消防本部の主幹(消防団担当)を廃止し、警防課に主査(消防団担当)を配置する。</li> <li>・10代目消防長金雅志退任し、11代目消防長に廣世平夫、7代目消防本部次長に高畠敏明就任する。</li> <li>・千歳第一分団の2分団化を図り、千歳第一分団及び千歳第二分団とする。</li> <li>・千歳市婦人防火委員の名称を千歳市女性防火委員に改正する。</li> <li>・女性防火委員を70名に委嘱する。(第14期)</li> <li>・支笏湖温泉出張所を移転新築する。</li> <li>・難燃性作業服を導入する。</li> </ul>
	<p>6月</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全消会道支部道央地区協議会平成13年度予防・危険物事務研究会を千歳市にて開催する。</li> </ul>
	<p>8月</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・空港環境整備協会助成事業として、災害用エアータント1張を購入整備する。</li> </ul>
	<p>10月</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・向陽台出張所2名増員し、13名体制とする。</li> <li>・高規格救急車(千歳救急3)1台を購入整備する。(空港環境整備協会助成事業)</li> <li>・向陽台出張所へ救急1号車を配置し、救急業務を開始する。</li> </ul>
	<p>12月</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・耐震性防火水槽(60<sup>m</sup>級・幌加:東千歳中学校敷地内)1基設置、消防用ホース170本を更新整備する。(石油貯蔵施設立地対策等交付金)</li> </ul>
	平成14年
<p>4月</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・千歳消防初の女性消防吏員1名を含め職員5名採用(うち2名欠員補充)、定員133名及び市長部局1名出向となる。</li> <li>・10代目消防署長古源紘宇退任し、11代目消防署長に森 満就任する。</li> <li>・消防本部総務課庶務係の名称を総務係に変更する。</li> </ul>	
<p>7月</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・北海道消防操法訓練大会ポンプ車の部に札幌地方支部の代表として出場する。</li> </ul>	
<p>8月</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・元千歳市消防団分団長故石塚雄一氏「勲六等瑞宝章」を受章する。</li> </ul>	
<p>11月</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・元千歳市消防団分団長秋元敏雄氏「勲六等瑞宝章」を受章する。</li> </ul>	
<p>12月</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・元消防長故神野寛氏「従六位・勲五等瑞宝章」を受章する。</li> </ul>	
<p>平成15年2月</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・セパレーツ型防火衣74着を導入する。(石油貯蔵施設立地対策等交付金)</li> <li>・耐震性防火水槽(60<sup>m</sup>級・文京3丁目:シカ公園内)1基設置する。(特定防衛施設周辺整備調整交付金)</li> <li>・千歳ポンプ更新する。(防衛施設周辺民生安定施設整備補助金)</li> </ul>	
<p>4月</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・女性消防吏員1名を含め職員5名採用(うち2名欠員補充)、定員136名となる。</li> <li>・11代目消防長廣世平夫退任し、12代目消防長に高畠敏明、8代目消防本部次長に登坂修之就任する。</li> <li>・6代目消防団長大谷勇一退任し、7代目消防団長に荒川重昭就任する。</li> </ul>	

年 月	事 項
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・機構改革に伴い、救急救助係の名称を救急係に変更し、救急専従隊の2隊運用を開始する。</li> <li>・千歳市女性防火委員の名称を千歳市防火委員に改正する。</li> <li>・防火委員を70名に委嘱する。(第15期)</li> </ul>
9月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出光興産株式会社北海道製油所タンク火災・警戒に伴い、北海道広域消防相互応援協定に基づく応援隊を苫小牧市へ派遣する。(9月29日～10月18日延11隊、55名)</li> </ul>
11月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・元千歳市消防署向陽台出張所長高田幸雄氏「瑞宝単光章」を受章する。</li> </ul>
12月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・耐震性貯水槽(60m<sup>3</sup>級・清流2丁目：クワガタ公園内)1基設置する。(石油貯蔵施設立地対策等交付金)</li> </ul>
平成16年1月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・元千歳市消防署長故江平等氏「従六位・瑞宝双光章」を受章する。</li> </ul>
2月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・セパレーツ型防火衣62着を導入する。(石油貯蔵施設立地対策等交付金)</li> </ul>
4月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高規格救急車(千歳救急4)1台を購入整備する。(防衛施設周辺民生安定施設整備補助金)</li> <li>・支笏湖温泉出張所へ救急2号車を予備車として配置する。</li> <li>・女性消防吏員1名を含め職員4名採用(欠員補充)、市長部局1名出向となる。</li> <li>・9代目消防本部次長に今井茂就任、11代目消防署長森満退任し、12代目消防署長に登坂修之就任する。</li> <li>・機構改革に伴い、本部予防課に是正係を新設、署警備課の指導係、機械係を廃止、署に査察課を新設し指導係及び査察係を配置する。</li> </ul>
11月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・元千歳市消防署富丘出張所長高橋正美氏「瑞宝単光章」を受章する。</li> <li>・元千歳市消防団長大谷勇一氏及び元千歳市消防団副団長坂野春雄氏「瑞宝単光章」を受章する。</li> </ul>
12月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・耐震性貯水槽(60m<sup>3</sup>級・大和4丁目：希望公園内)1基設置する。(石油貯蔵施設立地対策等交付金)</li> </ul>
平成17年2月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・千歳水槽2更新する。(特定防衛施設周辺整備調整交付金)</li> </ul>
4月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員3名採用(欠員補充)する。</li> <li>・12代目消防長高畠敏明退任し、13代目消防長に登坂修之、13代目消防署長に小林幸治就任する。</li> <li>・元千歳市消防署富丘出張所長石塚達雄氏「瑞宝単光章」を受章する。</li> <li>・防火委員を68名に委嘱する。(第16期)</li> </ul>
11月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・元千歳市消防署向陽台出張所長松田芳三氏「瑞宝単光章」を受章する。</li> </ul>
12月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・熱画像直視装置を1台整備する。(石油貯蔵施設立地対策等交付金)</li> <li>・西出張所広報車1台を更新整備する。(石油貯蔵施設立地対策等交付金)</li> <li>・耐震性貯水槽(60m<sup>3</sup>級・あずさ2丁目：あずさ1号公園内)1基設置する。(石油貯蔵施設立地対策等交付金)</li> </ul>
平成18年2月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高規格救急車(千歳救急1)1台を更新整備する。(防衛施設周辺民生安定施設整備補助金)</li> </ul>
4月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員3名採用(欠員補充)、総数135名となる。市長部局1名出向となる。</li> <li>・10代目消防本部次長に小林幸治、14代目消防署長に今井茂就任する。</li> <li>・機構改革に伴い、署の査察課を廃止し、警備課に査察係を配置する。</li> <li>・元千歳市消防署富丘出張所長中村守氏、元千歳市消防団副団長信田茂氏「瑞宝単光章」を受章する。</li> </ul>
11月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・元千歳市消防署西出張所長野口健氏「瑞宝単光章」を受章する。</li> </ul>
12月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・耐震性貯水槽(60m<sup>3</sup>級・北光6丁目：ひばりが丘2号公園内)1基設置する。(石油貯蔵施設立地対策等交付金)</li> </ul>
平成19年4月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員総数131名となる。</li> <li>・13代目消防長登坂修之退任し、14代目消防長に小林幸治、11代目本部次長に土居裕就任する。</li> <li>・機構改革に伴い、本部予防課の是正係、本部警防課のMC担当主査を廃止し、警備課に指導係を配置する。</li> </ul>



年 月	事 項
平成 20 年 10 月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防火委員を 70 名に委嘱する。(第 17 期)</li> <li>・元千歳市消防署祝梅出張所長高嶋正之氏「瑞宝単光章」を受章する。</li> <li>・緊急消防援助隊 北海道・東北ブロック合同訓練(岩手県一関市)に職員 2 名参加する。</li> </ul>
平成 20 年 3 月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・救助工作車(千歳救助)を更新する。(特定防衛施設周辺整備調整交付金)</li> </ul>
平成 20 年 4 月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員 4 名採用(欠員補充) 総数 130 名となる。市長部局 1 名出向となる。北海道防災航空室 1 名派遣する。(総務課付)</li> <li>・機構改革に伴い、本部に主幹(消防広域化担当)を配置する。</li> <li>・元千歳市消防署向陽台出張所係長中村正次氏、元千歳市消防団長荒川重昭氏「瑞宝単光章」を受章する。</li> </ul>
平成 20 年 5 月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第 90 回全国消防長会財政委員会を千歳市にて開催する。</li> </ul>
平成 20 年 7 月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「北海道洞爺湖サミット 2008」開催に伴う消防特別警戒実施のため、全国の消防本部から応援を受けて、消防総合庁舎内に千歳地区警戒本部を設置し警戒を実施する。(7 月 5 日～11 日 消防部隊 10 隊 88 名、情報員 4 名、予防警戒員 12 名)</li> <li>・「ジュニアエイトサミット 2008 千歳支笏湖」開催に伴い、支笏湖地区において消防特別警戒を実施する。</li> </ul>
平成 20 年 11 月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・元千歳市消防長三谷宣儀氏、元千歳市消防長金雅志氏、元千歳市消防本部次長古源紘宇氏「瑞宝双光章」を受章する。</li> </ul>
平成 21 年 1 月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・富丘水槽を更新する。(防衛施設周辺民生安定施設整備事業)</li> <li>・高規格救急車(千歳救急 2)を更新する。(空港環境整備協会助成事業)</li> </ul>
平成 21 年 4 月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員 3 名採用(欠員補充)する。</li> <li>・機構改革に伴い、本部主幹に主幹付係員を配置し、署の警備課に配置していた救急係及び指令係を分離し、救急指令課として新設する。</li> <li>・防火委員を 69 名に委嘱する。(第 18 期)</li> <li>・元千歳市消防長廣世平夫氏「瑞宝双光章」を受章する。</li> </ul>
平成 21 年 5 月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第 1 回千歳市・恵庭市・北広島市消防広域化検討委員会実施する。</li> </ul>
平成 21 年 7 月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員総数 129 名となる。</li> </ul>
平成 21 年 8 月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員 1 名採用(欠員補充) 総数 130 名となる。</li> <li>・平成 21 年度全国消防長会北海道支部総務委員会を千歳市にて開催する。</li> </ul>
平成 21 年 11 月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・元千歳市消防署支笏湖温泉出張所長田畑俊春氏、元千歳市消防本部警防課係長和泉宗雄氏「瑞宝単光章」を受章する。</li> </ul>
平成 22 年 1 月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・消防査察車(千歳連絡)を更新する。(地域活性化・経済危機対策臨時交付金)</li> <li>・消火栓 10 基更新する。(石油貯蔵施設立地対策等交付金)</li> <li>・耐震性貯水槽(60 m<sup>3</sup>級・春日町 1 丁目：春日公園内) 1 基設置する。(石油貯蔵施設立地対策等交付金)</li> <li>・第 2 回千歳市・恵庭市・北広島市消防広域化検討委員会実施する。</li> </ul>
平成 22 年 2 月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・千歳水槽 1 を更新する。(空港環境整備協会助成事業)</li> </ul>
平成 22 年 3 月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第 3 回千歳市・恵庭市・北広島市消防広域化検討委員会実施する。</li> </ul>
平成 22 年 4 月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員 2 名採用(欠員補充)する。</li> <li>・14 代目消防長小林幸治退任し、15 代目消防長に土居裕、12 代目本部次長に水森昭治、14 代目消防署長今井茂退任し、15 代目消防署長に上原高司就任する。</li> <li>・元千歳市消防署長森 満氏「瑞宝双光章」、元千歳市消防団分団長千葉信一氏、元千歳市消防本部主幹(消防団担当)福岡博彦氏「瑞宝単光章」受章する。</li> </ul>
平成 22 年 5 月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員 1 名採用、総数 131 名となる。</li> <li>・機構改革に伴い、本部主幹に主幹付主査を新設する。</li> <li>・第 4 回千歳市・恵庭市・北広島市消防広域化検討委員会実施する。</li> </ul>

總務編

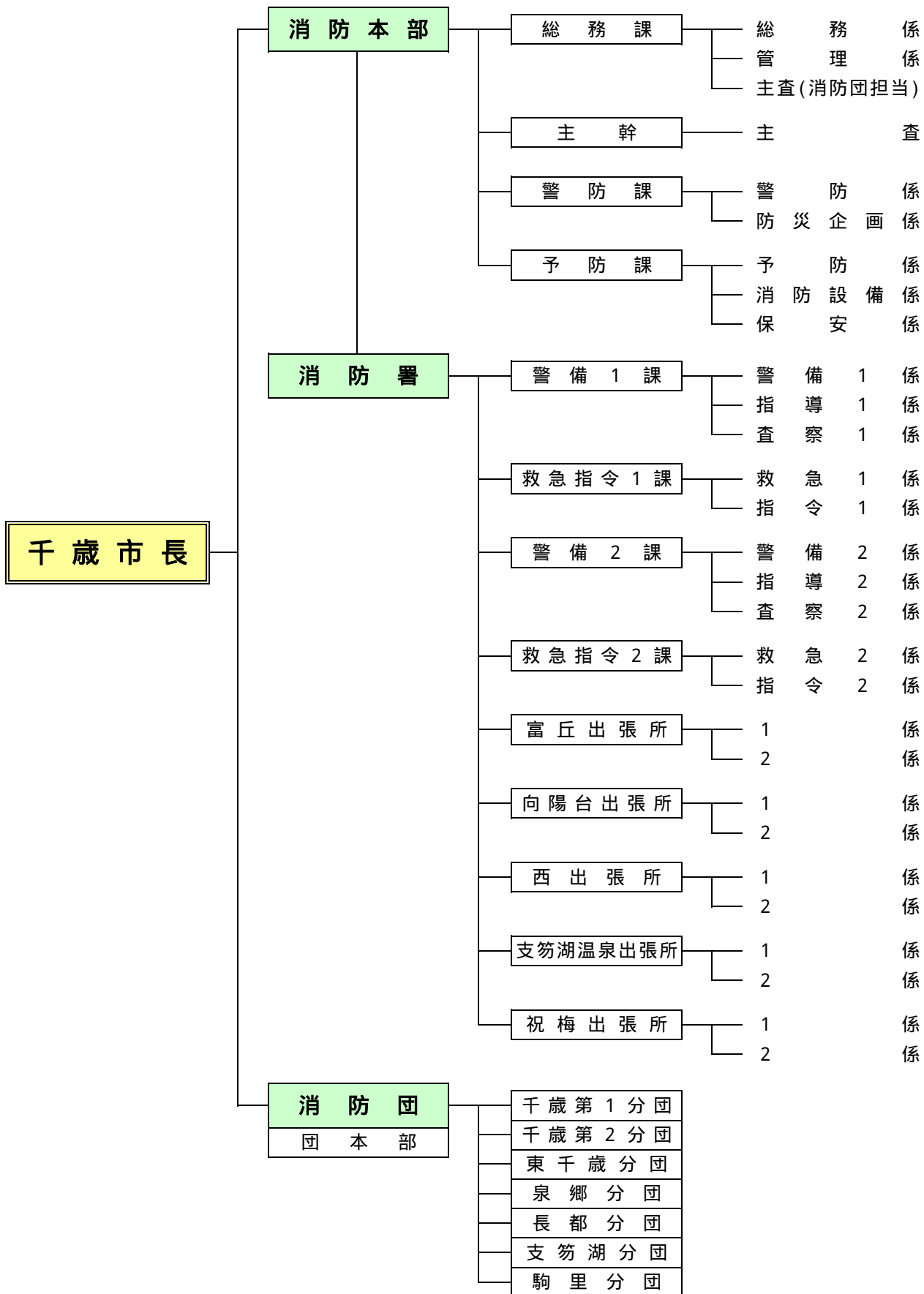
# 消防関係施設一覧

(平成22年4月1日現在)

名 称	竣工年月日	所 在 地	構造及び延べ面積	敷地面積	備考
消防総合庁舎	昭和53.11.30	東雲町4丁目1番地の7	SRC、一部RC造2F建 (地下1、地上2、訓練塔7) 2617.34㎡	4385.55㎡	
車庫兼倉庫	昭和59.11.22	同 上	S造・2F建 177.82㎡	上記に含む	
消防資器材 管理倉庫	昭和39.9.7	東雲町4丁目1番地の1	S造・2F建 458.25㎡	718.08㎡ 借地	北海道 財務局 管理地
富丘出張所 (増改築)	昭和45.12.12 (平成3.2.15)	富丘4丁目12番14号	CB造・平屋建 328.66㎡	2321.95㎡	
向陽台出張所	昭和59.10.30	里美2丁目2番地の3	RC造・平屋建 565.95㎡	2302.30㎡	
西出張所	平成1.11.22	上長都964番地の8	RC造・平屋建 456.16㎡	2419.08㎡	
支笏湖温泉 出張所	平成13.3.7	支笏湖温泉10番	RC造・2F建 398.95㎡	1250.12㎡	
祝梅出張所	平成9.3.18	流通3丁目1番地の14	RC造・2F建 598.08㎡	2651.48㎡	
東千歳分団車庫 及びサイレン塔	昭和62.10.16	幌加713-140	CB造・平屋建・サイレン塔12m 28.35㎡	216.00㎡	
泉郷分団車庫 及びサイレン塔	平成6.11.30	泉郷268-9	CB造・平屋建・サイレン塔14m 55.90㎡	市有地	防災倉庫
長都分団車庫 及びサイレン塔	平成13.1.23	釜加362-5	CB造・平屋建・サイレン塔10m 55.91㎡	313.60㎡	防災倉庫
駒里分団車庫 及びサイレン塔	昭和54.10.25	駒里2231-3	CB造・平屋建・サイレン塔12m 28.35㎡	105.00㎡ 借地	民間機関 管理地
新川サイレン塔	平成1.10.9	新川225	鉄骨塔 12m	4.41㎡	新川公民 館用地内
東丘サイレン塔	平成8.12.13	東丘1362-2	鉄骨塔 12m	市有地	寿の家 用地内
協和サイレン塔	平成9.12.11	協和842-6	鉄骨塔 10m	市有地	協和公民 館用地内

消 防 機 構 図

(平成22年5月1日現在)



# 職員配置状況

平成22年5月1日現在

階 級		総 数	消防監	司令長	司 令	司令補	士 長	副士長	消防士	係 長	主 事
区 分											
総 数		131	1	2	13	29	52	14	19	1	
消 防 本 部 合 計		22	1	1	4	9	5		1	1	
消 防 本 部	消 防 長	1	1								
	消 次 長	1		1							
	総 務 課	7			1	4	1		1		
	課 長	1			1						
	総 務 係	2				1	1				
	管 理 係	2				1			1		
	主 査 (消防団担当)	1				1					
	総 務 課 付	1				1					
	主 幹 (消防広域化担当)	3			1			1			1
	主 幹 査	1			1						1
	主 査 付	1						1			
	警 防 課	4			1	2	1				
	課 長	1			1						
	警 防 係	1				1					
防 災 企 画 係	2				1	1					
予 防 課	6			1	3	2					
課 長	1			1							
予 防 係	1				1						
消 防 設 備 係	2				1	1					
保 安 係	2				1	1					
消 防 署 合 計		109		1	9	20	47	14	18		
消 防 署	署 長	1		1							
	警 備 1 課	16			1	3	7	2	3		
	課 長	1			1						
	警 備 1 係	8				1	4	1	2		
	指 導 1 係	1				1					
	査 察 1 係	6				1	3	1	1		
	救 急 指 令 1 課	13			1	2	6	1	3		
	課 長	1			1						
	救 急 1 係	10				1	5	1	3		
	指 令 1 係	2				1	1				
	警 備 2 課	16			1	3	7	2	3		
	課 長	1			1						
	警 備 2 係	8				1	4	1	2		
	指 導 2 係	1				1					
査 察 2 係	6				1	3	1	1			
救 急 指 令 2 課	12			1	2	5	1	3			
課 長	1			1							
救 急 2 係	9				1	4	1	3			
指 令 2 係	2				1	1					
富 丘 出 張 所	11			1	2	4	2	2			
所 長	1			1							
1 ・ 2 係	10				2	4	2	2			
向 陽 台 出 張 所	11			1	2	4	2	2			
所 長	1			1							
1 ・ 2 係	10				2	4	2	2			
西 出 張 所	11			1	2	6	2				
所 長	1			1							
1 ・ 2 係	10				2	6	2				
支 笏 湖 温 泉 出 張 所	7			1	2	4					
所 長	1			1							
1 ・ 2 係	6				2	4					
祝 梅 出 張 所	11			1	2	4	2	2			
所 長	1			1							
1 ・ 2 係	10				2	4	2	2			

## 職員年齢状況

平成22年5月1日現在

階 年 齢	総 数	消防監	司令長	司 令	司令補	士 長	副士長	消防士	係 長
総 数	131	1	2	13	29	52	14	19	1
20歳未満	0								
20歳～24歳	10							10	
25歳～29歳	13						5	8	
30歳～34歳	20					13	6	1	
35歳～39歳	25				1	21	3		
40歳～44歳	16				5	11			
45歳～49歳	15				13	2			
50歳～54歳	15		1	9	3	1			1
55歳以上	17	1	1	4	7	4			
平均年齢	40.2	58.0	56.0	53.7	48.6	38.9	31.3	25.1	54.0

## 職員勤続年数

平成22年5月1日現在

階 年 数	総 数	消防監	司令長	司 令	司令補	士 長	副士長	消防士	係 長
総 数	131	1	2	13	29	52	14	19	1
5年未満	15							14	1
5年～9年	21					6	10	5	
10年～14年	22					18	4		
15年～19年	19				2	17			
20年～24年	11				7	4			
25年～29年	11			2	8	1			
30年以上	32	1	2	11	12	6			
平均勤続年数	18.8	38.1	34.1	33.0	28.6	17.6	8.3	3.3	2.1

## 団員実員状況

平成22年5月1日現在

階級 分団	総数	団長	副団長	分団長	副分団長	部長	班長	団員
総数	174	1	2	8	8	20	39	96
団本部	20	1	2	1	1	2	3	10
千歳第1分団	23			1	1	3	6	12
千歳第2分団	25			1	1	3	6	14
東千歳分団	35			1	1	4	8	21
泉郷分団	19			1	1	2	4	11
長都分団	16			1	1	2	4	8
支笏湖分団	15			1	1	2	4	7
駒里分団	21			1	1	2	4	13

## 団員年齢状況

平成22年5月1日現在

階級 年齢	総数	団長	副団長	分団長	副分団長	部長	班長	団員
総数	174	1	2	8	8	20	39	96
20歳未満	0							
20歳～29歳	10							10
30歳～39歳	57						9	48
40歳～49歳	62				1	6	22	33
50歳～59歳	28			1	5	12	6	4
60歳以上	17	1	2	7	2	2	2	1
平均年齢	43.5	67.0	66.0	63.3	56.3	50.8	45.2	37.9

## 団員勤続年数

平成22年5月1日現在

階級 年数	総数	団長	副団長	分団長	副分団長	部長	班長	団員
総数	174	1	2	8	8	20	39	96
5年未満	39							39
5年～9年	37						6	31
10年～14年	27					2	11	14
15年～19年	24				1	4	10	9
20年～24年	23				3	8	10	2
25年～29年	6				1	4		1
30年以上	18	1	2	8	3	2	2	
平均勤続年数	13.8	47.7	41.6	35.3	25.9	22.6	16.5	7.1

# 消 防 財 政

市予算と消防予算内訳（当初予算）

（単位：千円）

年 度	一般会計 ( A )	消防費					比 率 B / A
		( B )	常備消防費	非常備消防費	消防施設費	職員費	
平成18	46,755,915	1,119,547	129,121	24,926	13,273	952,227	2.4%
平成19	45,405,244	1,184,016	120,493	25,983	82,384	955,156	2.6%
平成20	46,870,585	1,141,181	134,134	26,990	44,569	935,488	2.4%
平成21	43,180,159	1,225,566	166,947	26,027	82,214	950,378	2.8%
平成22	43,286,640	1,511,531	148,125	26,312	394,294	942,800	3.5%

消防費の人口・世帯別状況

（単位：円）

年 度	消 防 費	市民一人当たりの 消 防 費	一世帯当たりの 消 防 費	職員一人当たりの 消 防 費
平成18	1,119,547,000	12,223	26,771	8,292,941
平成19	1,184,016,000	12,848	27,959	9,038,290
平成20	1,141,181,000	12,353	26,620	8,778,315
平成21	1,225,566,000	13,216	28,291	9,427,431
平成22	1,511,531,000	16,164	34,528	11,627,162



# 各種資格取得状況

(平成22年4月1日現在)

階 級 種 類	合 計	消防監	司令長	司 令	司令補	士 長	副士長	消防士	係 長
大型自動車運転免許	105	1	2	13	27	50	8	4	0
大型第二種運転免許	2	0	0	0	0	2	0	0	0
危険物取扱者	74	1	2	9	17	36	5	4	0
消防設備士	8	0	0	1	3	4	0	0	0
救急救命士	24	0	0	1	3	6	2	12	0
救急課程修了者	15	0	0	6	5	4	0	0	0
救急課程修了者	16	0	0	2	12	2	0	0	0
救急科修了者	43	0	0	0	2	35	4	2	0
救助科修了者	39	0	1	2	10	19	7	0	0
第2級陸上特殊無線技士	27	0	0	4	11	11	1	0	0
酸素欠乏・硫化水素 危険作業主任者	37	0	1	4	9	18	5	0	0
ガス溶接技能講習	41	0	1	1	12	22	5	0	0
玉掛け技能講習	52	0	1	1	13	32	5	0	0
小型移動式クレーン	69	0	1	8	19	34	7	0	0
小型船舶操縦士	42	0	0	1	13	24	4	0	0
第1種衛生管理者	16	1	1	3	8	2	0	0	1

職団員研修派遣予定

(平成22年度中)

<消防職員>

種 別	回 数	人 員
<b>1 北海道消防学校</b>	11	14
初任教育	2	3
専科教育 警 防 科	0	0
〃 予 防 査 察 科	1	1
〃 危 険 物 科	0	0
〃 火 災 調 査 科	1	1
〃 救 急 科	2	3
〃 救 助 科	1	1
特別教育 はしご自動車運用課程	1	1
〃 気管挿管講習	1	1
〃 薬剤投与講習	1	1
気管挿管再認定講習	1	2
<b>2 札幌市消防学校</b>	2	2
救急救命士養成課程	1	1
専科教育 現場指揮課程	1	1
<b>3 消防大学校</b>	0	0
総合教育 幹 部 科	0	0
<b>4 財団法人救急振興財団</b>	0	0
救急救命東京研修所	0	0
<b>5 各種資格取得</b>	7	13
大型自動車運転免許	1	2
二級小型船舶操縦士免許	1	2
小型移動式クレーン技能講習	1	2
玉 掛 け 技 能 講 習	1	2
ガス溶接技能講習	0	0
酸素欠乏危険作業主任者技能講習	1	2
酸素欠乏・硫化水素危険作業主任者技能講習	1	2
足場の組立等主任者技能講習	0	0
第2級陸上特殊無線技士	1	1
<b>総 計</b>	<b>20</b>	<b>29</b>

<消防団員>

種 別	回 数	人 員
<b>1 北海道消防学校</b>	2	3
基礎教育 (男性)	1	2
〃 (女性)	0	0
幹部教育	1	1
<b>総 計</b>	<b>2</b>	<b>3</b>

# 敬 言 防 編

# 消防車両配置状況

(平成22年4月1日現在)

配置場所 車両名	総 数	指 揮 本 部 車	ポ ン プ 車	タ ン ク 車	屈 折 梯 子 車	梯 子 車	化 学 車	救 助 工 作 車	大 型 水 槽 車	広 報 車	作 業 車	救 急 車	積 載 車	人 員 輸 送 車	そ の 他 の 車 両
総 数	37	1	3	8	1	1	1	1	1	8	1	4	4	1	2
本 部 ( 署 )	15	1		2	1		1	1		3	1	2		1	2
富 丘 出 張 所	3		1	1						1					
向 陽 台 出 張 所	4		1	1						1		1			
西 出 張 所	3			1		1				1					
支 笏 湖 温 泉 出 張 所	3			1						1		1			
祝 梅 出 張 所	3			1					1	1					
千 歳 第 1 . 2 分 団	2		1	1											
東 千 歳 分 団	1												1		
泉 郷 分 団	1												1		
長 都 分 団	1												1		
駒 里 分 団	1												1		

## 小型動力ポンプ配置状況及び性能

(平成22年4月1日現在)

配 置 車 両	種 別	型 式	級 別	ポ ン プ	出 力	整 備 年
向 陽 台 ポ ン プ	シバウラ	SF - 755	B - 2	タ - ピン	54 ps	平成10年
支 笏 湖 水 槽	シバウラ	SF - 756	B - 2	タ - ピン	54 ps	平成12年
東 千 歳 積 載	シバウラ	TF - 55	B - 2	タ - ピン	55 ps	平成 2年
泉 郷 積 載	シバウラ	TF - 55	B - 2	タ - ピン	55 ps	平成 5年
長 都 積 載	シバウラ	TF - 55	B - 2	タ - ピン	55 ps	平成 2年
駒 里 積 載	シバウラ	TF - 55	B - 2	タ - ピン	55 ps	平成 7年

# 消防車両等の性能

(平成22年4月1日現在)

名称		車種	年式	級別	機装社名	排気量( )	水容量( )	出力(kw)[ps]	定員
タンク車	千歳水槽1	いすゞ	2010	A-2	田井自動車	15.68	3,000	294[400]	6
	富丘水槽	日野	2008	A-2	田井自動車	7.68	3,000	176[240]	6
	西水槽	三菱	1989	A-2	田井自動車	7.54	3,000	136[185]	7
	向陽台水槽	日野	2005	A-2	田井自動車	10.52	3,000	235[320]	7
	千歳水槽2	三菱	1990	A-2	田井自動車	7.54	3,000	136[185]	7
	千歳水槽3	日産	1993	A-1	森田ポンプ	6.92	2,000	136[185]	7
	支笏湖水槽	日野	2001	A-2	田井自動車	7.96	2,000	162[220]	7
	祝梅水槽	日野	1997	A-2	田井自動車	13.26	3,000	191[260]	7
ポンプ車	富丘ポンプ	日野	2003	A-2	田井自動車	7.96		162[220]	7
	向陽台ポンプ	三菱	1998	A-2	田井自動車	8.20		185[251]	7
	千歳ポンプ	日野	2000	A-2	田井自動車	7.96		162[220]	7
特殊車	千歳指揮	三菱	1994		田井自動車	4.21		88[120]	7
	千歳救助	日野	2008		田井自動車	8.86		242[330]	6
	千歳屈折	日野	1991	A-2	森田ポンプ	17.23		250[340]	6
	西梯子	日野	1983	A-2	田井自動車	13.26		199[270]	5
	千歳化学	日野	1986	A-2	田井自動車	13.26	2,000	199[270]	7
	祝梅大水	日野	1996	B-2	田井自動車	19.68	10,000	261[355]	3
救急車	千歳救急1	日産	2006	高規格	オーテック	3.49		176[240]	7
	千歳救急2	トヨタ	2009	高規格	テクノクラフト	2.69		111[151]	7
	千歳救急3	トヨタ	2001	高規格	テクノクラフト	3.37		132[180]	7
	千歳救急4	トヨタ	2004	高規格	テクノクラフト	3.37		132[180]	7
広報車	千歳広報1	トヨタ	2000		ネットトヨタ	1.99		96[130]	8
	千歳調査	トヨタ	1998		札幌トヨペット	2.98		67[91]	9
	富丘広報	トヨタ	1993		札幌トヨペット	2.77		67[91]	9
	向陽台広報	三菱	1996		北央三菱	1.46		63[85]	5
	千歳広報2	三菱	1997		北央三菱	2.83		103[140]	7
	西広報	日産	2005		北海道日産	1.76		90[122]	5
	祝梅広報	トヨタ	1997		札幌トヨペット	2.77		67[91]	9
	支笏湖広報	三菱	1999		北央三菱	1.83		96[130]	5
その他	乗用車	トヨタ	1996		(リ-ス)	2.49		147[200]	5
	千歳搬送	トヨタ	1990		トヨタビスタ	2.44		63[85]	3
	千歳輸送	トヨタ	1999		札幌トヨタ	4.16		140[190]	29
	千歳連絡	ホンダ	2009		ホンダカーズ	1.33		64[88]	5
積載車	東千歳積載	トヨタ	1990		田井自動車	2.44		63[85]	8
	泉郷積載	日産	1993		田井自動車	2.66		63[85]	8
	長都積載	トヨタ	1990		田井自動車	2.44		63[85]	8
	駒里積載	日産	1996		田井自動車	2.66		63[85]	8

網掛け車両は4WD

## ホ - ス保有状況

(平成22年4月1日現在)

区分 配置場所	総数	65mm	50mm	40mm
総数	1,068	874	75	119
本署	464	375	20	69
富丘出張所	145	119	16	10
向陽台出張所	130	110	10	10
西出張所	71	50	11	10
支笏湖温泉出張所	59	40	9	10
祝梅出張所	99	80	9	10
東千歳分団	20	20		
泉郷分団	20	20		
長都分団	20	20		
支笏湖分団	20	20		
駒里分団	20	20		

(単位：本)

## 化学消火薬剤備蓄状況

(平成22年4月1日現在)

区分 薬剤別	備蓄	車載	総数
(消火薬剤/署保有分)			
スーパーフォーム	9,555	2,335	11,890
(消火薬剤/道備蓄分)			
スノーラップHK	2,000		2,000
合計	11,555	2,335	13,890

(単位：リットル)

## 中和剤備蓄状況

(平成22年4月1日現在)

区分 薬剤別	備蓄	車載	総数
スノーラップE		57	57
メールクリーン	432	149	581
合計	432	206	638

(単位：リットル)

## 町名(地区)別水利状況

(平成22年4月1日現在)

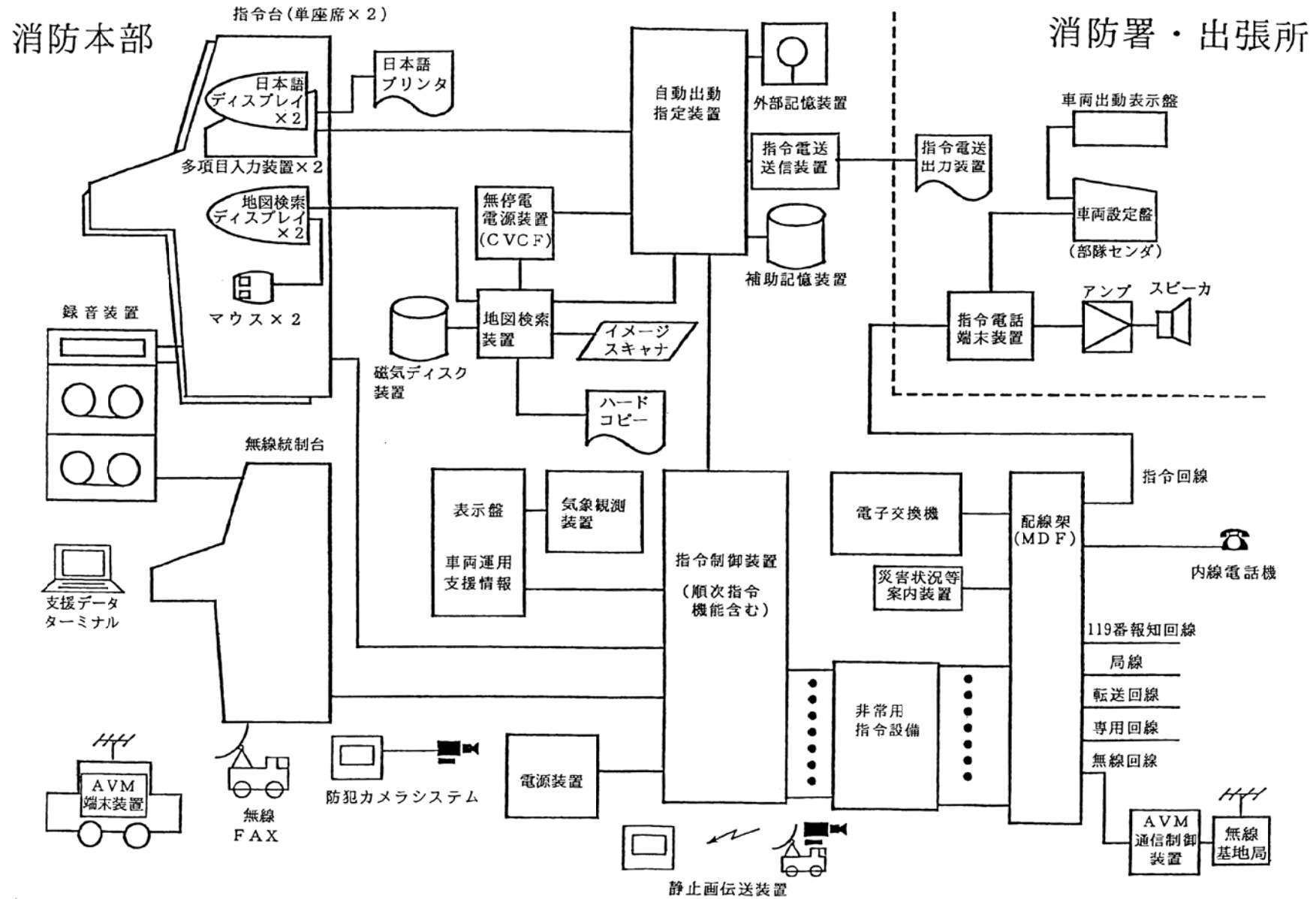
区分 町名(地区)	防火水槽 (40t以上)		防火 水槽 計	消 火 栓						消 火 栓 合 計
	公 設	私 設		公 設			私 設			
				双 口	単 口	小 計	双 口	単 口	小 計	
栄 町		2	2	3	11	14			0	14
本 町			0	5	4	9			0	9
錦 町			0	3	6	9			0	9
春 日 町	1		1	5	7	12			0	12
緑 町			0	1	8	9			0	9
大 和	1		1	1	14	15			0	15
桂 木			0	1	12	13			0	13
新 星・蘭 越			0		5	5			0	5
末 広	2		2	5	14	19			0	19
長 都			0		8	8			0	8
都			0		4	4			0	4
釜 加			0		6	6			0	6
泉 郷	1		1		4	4			0	4
中 央		2	2		12	12			0	12
東 千 歳 地 区	1		1		7	7			0	7
清 水 町	1		1	6	6	12			0	12
幸 町			0	6	4	10			0	10
千 代 田 町		1	1	5	7	12			0	12
朝 日 町	1		1	5	8	13			0	13
東 雲 町			0	6	6	12			0	12
真 々 地			0	1	9	10		3	3	13
真 町			0	1	2	3			0	3
青 葉	1		1	2	19	21		2	2	23
青 葉 丘			0		6	6			0	6
平 和			0	2	1	3	3	2	5	8
駒 里			0		7	7	13		13	20
美 々		3	3		32	32			0	32
柏 台 南	2	2	4		14	14			0	14
柏 台		1	1		1	1			0	1
日 の 出	1		1	2	12	14			0	14
住 吉	1		1	3	14	17			0	17
東 郊			0		10	10			0	10
豊 里			0		14	14			0	14
旭 ケ 丘			0		8	8			0	8
梅 ケ 丘	1		1	2	8	10			0	10
弥 生			0	3	10	13			0	13
寿			0	2	10	12			0	12
流 通			0		22	22			0	22
根 志 越		1	1			0			0	0

(平成22年4月1日現在)

区分 町名(地区)	防火水槽 (40t以上)		防合 火水 槽計	消 火 栓						消 火 栓 合 計
	公 設	私 設		公 設			私 設			
				双 口	単 口	小 計	双 口	単 口	小 計	
花 園	1		1	7	14	21			0	21
高 台	1		1	6	12	18			0	18
稲 穂	1		1		13	13			0	13
富 丘	1		1	8	27	35			0	35
北 光	1	1	2	1	17	18			0	18
北 栄	2	1	3	3	10	13			0	13
新 富	2		2	5	17	22	2		2	24
信 濃	1		1	5	17	22			0	22
北 陽	1		1	2	12	14			0	14
あ ず さ	1		1	1	14	15			0	15
清 流	1		1	1	40	41			0	41
幸 福			0		9	9			0	9
勇 舞		2	2		28	28			0	28
自 由 ケ 丘	2		2	1	31	32			0	32
桜 木	1		1		20	20			0	20
富 士	1		1	6	8	14			0	14
北 斗	1		1	7	18	25		1	1	26
長 都 駅 前	1		1	2	13	15			0	15
第 1 工 業 団 地		2	2	6	4	10			0	10
第 2 工 業 団 地		5	5	6	13	19			0	19
第 3 工 業 団 地		2	2	10	16	26			0	26
第 4 工 業 団 地			0		11	11		1	1	12
みどり台地区			0		28	28			0	28
若 草	1		1	4	20	24			0	24
白 樺	1		1	8	20	28			0	28
里 美			0		15	15			0	15
柏 陽			0	2	17	19			0	19
福 住			0		10	10			0	10
文 京	1		1	2	26	28			0	28
臨空工業団地	1	16	17	10	83	93			0	93
泉 沢			0			0		1	1	1
支笏湖温泉	3	1	4		9	9			0	9
東千歳自衛隊内			0			0	64	14	78	78
北千歳自衛隊内			0			0	1	20	21	21
第二航空団		6	6			0	21	99	120	120
新千歳空港		40	40			0		5	5	5
北 信 濃		1	1		10	10				10
合 計	40	89	129	173	954	1,127	104	148	252	1,379



# 千歳市消防緊急通信指令施設構造図



## 通信施設一覽表

(平成22年4月1日現在)

施設名		総数	適 用
1 1 9		15回線	市街地区4・泉郷中央地区1・支笏湖地区1・衛星通信電話1・IP電話6・携帯電話2
指令回線		8(1)回線	富丘出張所2・向陽台出張所2・西出張所2・(支笏湖温泉出張所着信電話1) ・祝梅出張所2
内線電話		57回線	庁舎内50・富丘出張所1・向陽台出張所1・西出張所1・祝梅出張所1 ・市役所相互回線3
総合指令台		2台	指令主2台・副2台
テレガイド		3回線	火災・救急当番医お知らせ用 24-6161
運用表示板		3面	車両運用表示盤・支援情報表示盤・管内地図表示盤
無線電話	基地局	5波	消防波1~3ch各1台・救急波1ch1台・FAX波1ch1台
	車載	44台	消防無線機40台・救急無線機4台
	携帯	46台	消防無線機(10w)1台・(5w)32台・(1w)13台
防災行政	固定系	1台	遠隔制御装置子機
無線	移動系	4台	消防署2・支笏湖温泉出張所2
気象観測装置		1台	遠隔測定自動記録(温度・湿度・風向・風速・雨量・気圧)
その他・指令台装置			車庫オーバースライダーリモコン3系統・照明リモコン4系統・サイレンコントロール ・各種消防信号自動吹鳴

## 消防車両出動状況

(平成21年中)

月別 区分	総数	月											
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
出動件数	157	18	11	10	12	23	13	17	12	13	7	8	13
出動台数	341	34	29	21	41	39	22	46	20	23	7	19	40
出動人員(職員)	1,132	115	95	71	131	122	74	156	48	82	27	69	142
"(団員)	93	23			40	28		2					
"(その他)	15					15							
火災出動	49	3	4	1	7	4	5	9	2	4	1	3	6
警戒出動	89	15	5	7	3	14	8	7	10	9	3	2	6
応援出動	0												
水防出動	0												
調査出動	18		2	2	2	5		1			3	3	
その他	1												1

# 月別火災状況

(平成21年中)

区分		月	合計	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
火災 件数	計		35	4	3	1	8	4	1	6	2	1	0	2	3	
	建物		22	4	2	1	3		1	4	1	1		2	3	
	林野		3				1	2								
	車両		3							2	1					
	その他		7		1		4	2								
爆発			1	1												
焼損 棟数	計		24	4	2	3	3	0	1	4	1	1	0	2	3	
	焼損 程度	全焼		3	2		1									
		半焼		1							1					
		部分焼		4		1		1		1	1					
		ぼや		13	1	1		2			2	1	1		2	3
延焼棟		3	1		2											
焼損 面積	床面積 (m <sup>2</sup> )		454	130	49	95	17		10	153						
	表面積 (m <sup>2</sup> )		58			58										
	林野 (a)		25				8	17								
罹災 世帯	計		16	4	2	3	0	0	0	2	0	1	0	2	2	
	全損		3	1	1	1										
	半損		1							1						
	小損		12	3	1	2				1		1		2	2	
罹災人員			40	6	3	12				6		3		6	4	
死傷 者	死者	消防		0												
		一般		2		1	1									
	傷者	消防		0												
		一般		1	1											
損 害 額	計 (千円)		33,007	3,617	1,381	10,480	3,415	0	77	7,969	100	10	0	149	5,809	
	建物		19,964	2,649	1,206	9,649	1		77	6,258		9		113	2	
	内容物		12,073	968	35	831	3,414			981		1		36	5,807	
	車両		830							730	100					
	その他		140		140											

# 地域別火災状況

(平成21年中)

区分 地域	火災件数								爆 発	罹災		焼損面積			損害額 (千円)	死傷者	
	合 計	建 物				林 野	車 両	そ の 他		世 帯 数	人 員	建 物		林 野 (a)		死 者	傷 者
		全 焼	半 焼	部 分 焼	ぼ や							床 面積 (m <sup>2</sup> )	表 面積 (m <sup>2</sup> )				
合 計	35	3	1	4	13	3	3	7	1	16	40	454	58	25	33,007	2	1
長 都	1							1									
上 長 都	2			2								121			5,635		
協 和	1	1										34			330		
幸 福	1				1												
寿	2	1		(1)				1	2	3		96			3,234		
駒 里	1				1										1		
桜 木	1				1				1	2					2		
新 富	1			1								10			77		
住 吉	1								1	1	1				9		1
高 台	2				1			1	1	2					6		
新 川	1							1									
錦 町	1				1				1	1							
根 志 越	5				2			1	2						69		
東 丘	1					1								17			
美 々	1				1												
富 士	1				1				1	3					5,809		
文 京	2				2				2	6					147		
平 和	1							1							662		
北 斗	1							1							140		
北 陽	2	1	1	(2)					4	16		144	58		15,497	1	
北 光	2				2				2	5					54		
幌 美 内	1					1								8			
都	1							1							100		
紋 別	1					1											
大 和	1			1					1	1		49			1,235	1	

( )は延焼で火災件数には含まれません。  
「爆発」の1件は建物火災ですが、焼き損害がなかったため焼損程度に含まれません。

# 原因別火災状況

(平成21年中)

区分 原因	火災件数									罹災		焼損面積			損害		死傷者	
	合計	建物				林野	車両	その他	爆発	世帯数	人員	建物		林野(a)	損害額(千円)	死者	傷者	
		全焼	半焼	部分焼	ぼや							床面積(m <sup>2</sup> )	表面積(m <sup>2</sup> )					
合計	35	3	1	4	13	3	3	7	1	16	40	454	58	25	33,007	2	1	
たばこ	6			1	2	2		1		1	1	10		8	78			
こんろ	4				3				1	4	10				172		1	
かまど炉	2			2								121			5,635			
風呂かまど	0																	
焼却炉	0																	
ストーブ	1		1							1	4	49			5,017			
こたつ	0																	
ポイラー	0																	
煙突・煙道	0																	
車両の排気管	2						2								168			
電気機器	1				1					1	2							
電気装置	0																	
電灯・電話等の配線	2				1			1		1	2				184			
内燃機関	0																	
配線器具	0																	
火遊び	0																	
マッチ・ライター	0																	
たき火	0																	
溶接機・切断機	1				1										1			
灯火	0																	
衝突の火花	0																	
取灰	2	1			1							34			330			
火入れ	0																	
放火(疑い含む)	2	1			(1)			1		2	3	96			3,234			
その他	9				3	1	1	4		2	5			17	6,473			
不明	3	1		1(2)	1					4	13	144	58		11,715	2		

( )は延焼で火災件数には含まれません。

「爆発」の1件は建物火災ですが、焼き損害がなかったため焼損程度に含まれません。

# 時間別火災件数

(平成21年中)

区分 時間	火災件数								爆発	罹災		焼損面積			損害額(千円)	死傷者	
	合計	建物				林野	車両	その他		世帯数	人員	建物		林野(a)		死者	傷者
		全焼	半焼	部分焼	ぼや							床面積(m <sup>2</sup> )	表面積(m <sup>2</sup> )				
合計	35	3	1	4	13	3	3	7	1	16	40	454	58	25	33,007	2	1
6 ~ 7	1				1												
7 ~ 8	1						1								662		
8 ~ 9	2			1	1				1	3		10			5,886		
9 ~ 10	2			1	1							17			3,414		
10 ~ 11	1				1				1	2					44		
11 ~ 12	2				1	1			1	2				17	2		
12 ~ 13	2	1		(2)	1				3	12		95	58		10,480	1	
13 ~ 14	4				2	2								8	2		
14 ~ 15	4				1		1	2	1	4					247		
15 ~ 16	2	1		1					1	1		83			1,565	1	
16 ~ 17	2							2									
17 ~ 18	0																
18 ~ 19	6	1	1		1(1)			2	1	5	11	145			8,410		1
19 ~ 20	0																
20 ~ 21	4				3			1	3	5					6		
21 ~ 22	1			1								104			2,221		
22 ~ 23	0																
23 ~ 0	0																
0 ~ 1	0																
1 ~ 2	0																
2 ~ 3	0																
3 ~ 4	0																
4 ~ 5	0																
5 ~ 6	1						1								68		
不明	0																

( )は延焼で火災件数には含まれません。  
「爆発」の1件は建物火災ですが、焼き損害がなかったため焼損程度に含まれません。

# 用途別火災状況

(平成21年中)

区分 用途	火災件数								爆 発	罹 災		焼 損 面 積			損 害 額 (千円)	死 傷 者	
	合 計	建 物				林 野	車 両	そ の 他		世 帯 数	人 員	建 物		林 野 (a)		死 者	傷 者
		全 焼	半 焼	部 分 焼	ぼ や							床 面 積 (m <sup>2</sup> )	表 面 積 (m <sup>2</sup> )				
合 計	35	3	1	4	13	3	3	7	0	16	40	454	58	25	33,007	2	1
建 物	専用住宅	9	2	1	1(2)	5(1)				12	33	289	58		20,169	2	
	共同住宅	3				2			1	3	4				15		1
	店舗併用住宅	1				1				1	3				5,809		
	工場・作業所	4				2	2					121			5,636		
	倉 庫	3	1			1	1					44			407		
	養 畜 舎	1					1								1		
	空 家	1					1										
林 野	3						3							25			
車 両	3							3							830		
そ の 他	7								7						140		

# 初期消火状況

(平成21年中)

区分 火災種別	火 災 件 数	初 期 消 火 器 具						初 期 消 火 な し
		初 期 消 火 合 計	粉 末 消 火 器	水 道 水	衣 寝 類 具 等・	水 バ ケ ツ	そ の 他	
合 計	35	24	1	9	6	1	7	11
建 物	全 焼	3	1				1	2
	半 焼	1	1		1			
	部 分 焼	4	3	3				1
	ぼ や	13	11	4	4	1	1	2
林 野	3	2					2	1
車 両	3	1		1				2
そ の 他	7	5		1	1		3	2
爆 発	1	0						1

( )は延焼で火災件数には含まれません。  
「爆発」の1件は建物火災ですが、焼き損害がなかったため焼損程度に含まれません。

過去5年間の火災1件あたりの人口と損害

(各年1月1日～12月31日)

年	人 口 (世 帯)	火 災 件 数	1 件 当 た り		
			人 口 (世 帯)	建 物 焼 損 床 面 積 (m <sup>2</sup> )	損 害 額 (千 円)
17	91,822 (42,058)	46	1,996 (914)	61.5	2,513
18	92,461 (42,602)	37	2,499 (1,151)	70.5	2,702
19	92,847 (43,162)	37	2,509 (1,167)	7.6	778
20	93,123 (43,647)	35	2,661 (1,247)	21.5	1,018
21	93,489 (44,047)	35	2,671 (1,258)	13.0	943

過去5年間の人口1万人あたりの火災状況

(各年1月1日～12月31日)

年	人 口	火 災 件 数	1 万 人 当 た り		
			出 火 件 数	建 物 焼 損 床 面 積 (m <sup>2</sup> )	損 害 額 (千 円)
17	91,822	46	5.01	308.3	12,588
18	92,461	37	4.00	282.0	10,813
19	92,847	37	3.99	30.2	3,100
20	93,123	35	3.76	80.9	3,826
21	93,489	35	3.74	48.6	3,531

人口・世帯数は、各年1月1日現在



## 過去5年間の主なる原因

(各年1月1日～12月31日)

原因	年	17	18	19	20	21	5年間の累計
放 火		10	6	4	3	2	25
こ ん ろ		7	2	4	3	4	20
た ば こ		3	3	4	6	6	22
火 遊 び		1	1	2	2	0	6
ス ト - ブ		3	2	6	2	1	14
電 気 装 置		2	2	1	1	2	8
排 気 管		0	0	2	2	2	6
そ の 他		20	21	14	16	18	89

## 年別火災状況

(各年1月1日～12月31日)

区分 年	火 災 件 数									罹 災 人		焼 損 面 積			損 害 額 (千円)
	合 計	建 物				林 野	車 両	そ の 他	爆 発	世 帯 数	人 員	建 物		林 野 (a)	
		全 焼	半 焼	部 分 焼	ぼ や							床 面 積 (m <sup>2</sup> )	表 面 積 (m <sup>2</sup> )		
17	46	7	3	5	19	1	6	5		25	58	2,831	41	350	115,589
18	37	7	3	9	9		5	4		20	38	2,607	63		99,980
19	37	1	1	11	9		7	8		13	27	280	5		28,781
20	35	4	2	3	5	1	6	14		11	29	753	2	33	35,631
21	35	3	1	4	13	3	3	7	1	16	40	454	58	25	33,007

平成21年中の「爆発」の1件は建物火災ですが、焼き損害がなかったため焼損程度に含まれません。

# 救急救助編

## 救急活動状況

(平成21年中)

出 動 件 数	傷病者搬送件数	医師等搬送件数	不搬送件数	傷病者搬送人員
2,684	2,368	0	316	2,448

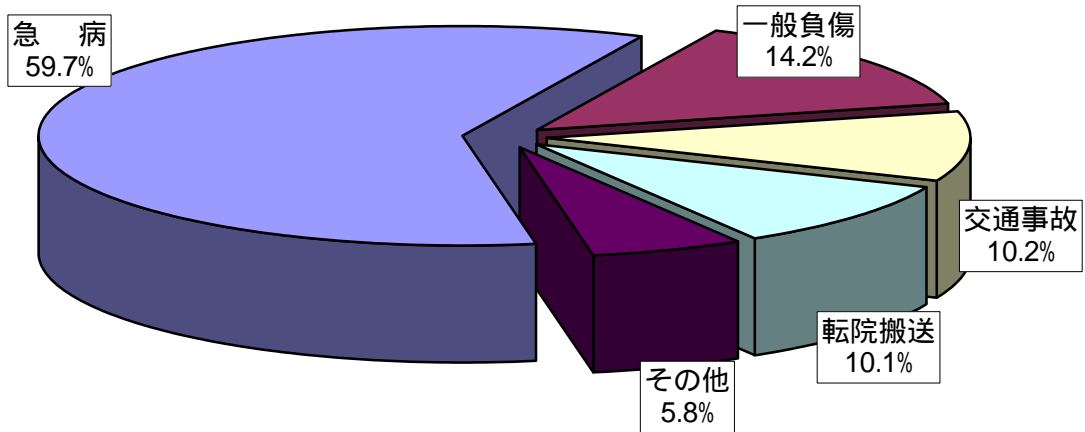
## 月別救急出動状況(件数)

(平成21年中)

月別 区分	総 数	火 災	自 然 災 害	水 難	交 通 事 故	労 働 災 害	運 動 競 技	一 般 負 傷	加 害	自 損 行 為	急 病	そ の 他			
												転 院 搬 送	医 師 搬 送	資 器 材 等 搬 送	そ の 他
総 数	2,684	20	0	8	274	35	14	380	19	56	1,602	270	0	0	6
1 月	249	2		1	19	1		52	1	4	150	19			
2 月	182	3			17			37	1	4	100	20			
3 月	229	1		1	19	3		35	2	5	131	30			2
4 月	171	2			14	1		32		5	101	16			
5 月	219				30	6	5	27		5	125	19			2
6 月	203	1		1	18	4	3	19		5	134	17			1
7 月	219	4			19	3	1	29	4	5	126	28			
8 月	247			2	34	4	1	27	2	3	155	19			
9 月	238	1		1	31	2		24	3	4	145	27			
10 月	238				25	4	3	33	1	4	148	20			
11 月	251	2		2	28	2	1	31	2	7	143	33			
12 月	238	4			20	5		34	3	5	144	22			1

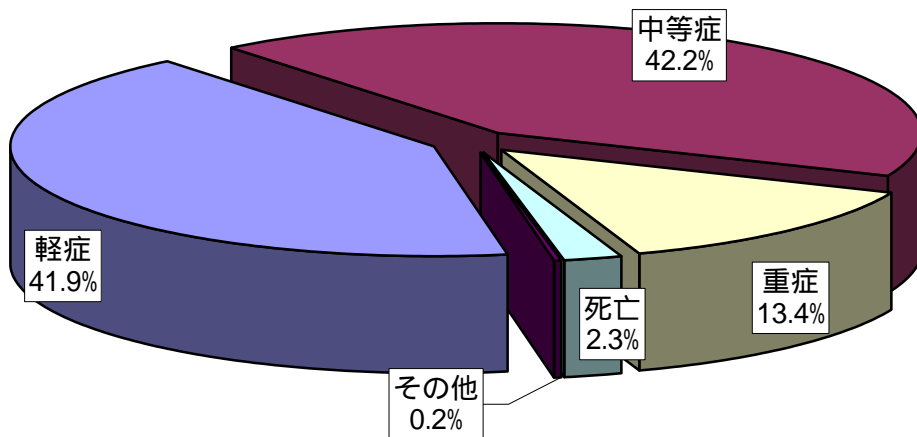
## 救急出動事故別比率

	件数	%
急病	1,602	59.7
一般負傷	380	14.2
交通事故	274	10.2
転院搬送	270	10.1
その他	158	5.8
合計	2,684	件



## 救急傷病程度別比率

	人数	%
軽症	1,025	41.9
中等症	1,033	42.2
重症	327	13.4
死亡	57	2.3
その他	6	0.2
合計	2,448	人



# 事故種別における世代別搬送人員

(平成21年中)

事故種別・程度		世 代	合 計	新生児	乳幼児	少 年	成 人	老 人
合 計	合 計		2,448	15	121	98	1,186	1,028
	死 亡		57	0	1	0	15	41
	重 症		327	2	6	4	124	191
	中 等 症		1,033	9	27	26	480	491
	軽 症		1,025	4	87	68	562	304
	そ の 他		6	0	0	5	1	
火 災	死 亡		0					
	重 症		0					
	中 等 症		0					
	軽 症		2					2
	そ の 他		0					
自 然 災 害	死 亡		0					
	重 症		0					
	中 等 症		0					
	軽 症		0					
	そ の 他		0					
水 難	死 亡		0					
	重 症		0					
	中 等 症		2				2	
	軽 症		1				1	
	そ の 他		0					
交 通 事 故	死 亡		3				2	1
	重 症		24				21	3
	中 等 症		54			5	35	14
	軽 症		228		9	27	161	31
	そ の 他		2				2	
労 働 災 害	死 亡		0					
	重 症		11				11	
	中 等 症		13				12	1
	軽 症		10				10	
	そ の 他		0					
運 動 競 技	死 亡		0					
	重 症		2			1	1	
	中 等 症		6			1	5	
	軽 症		8			2	5	1
	そ の 他		0					
一 般 負 傷	死 亡		3					3
	重 症		42			2	9	31
	中 等 症		108		4	5	40	59
	軽 症		180		21	15	66	78
	そ の 他		0					
加 害	死 亡		0					
	重 症		0					
	中 等 症		1				1	
	軽 症		10		1		7	2
	そ の 他		0					
自 損 行 為	死 亡		1				1	
	重 症		4				4	
	中 等 症		14				13	1
	軽 症		15				14	1
	そ の 他		0					
急 病	死 亡		47		1		12	34
	重 症		150		1	1	47	101
	中 等 症		695	2	19	10	311	353
	軽 症		543	2	50	24	288	179
	そ の 他		1				1	
そ の 他	死 亡		3					3
	重 症		94	2	5		31	56
	中 等 症		140	7	4	5	61	63
	軽 症		28	2	6		10	10
	そ の 他		3				2	1

## 曜日別搬送人員

(平成21年中)

曜日 事故種別	合計	日	月	火	水	木	金	土
合計	2,448	351	371	342	323	327	369	365
火災	2				1	1		
自然災害								
水難	3	2	1					
交通事故	311	45	46	45	44	34	47	50
労働災害	34	1	6	4	3	5	7	8
運動競技	16	6		2	1	1		6
一般負傷	333	46	46	41	41	48	55	56
加害	11	5	1	1	1	2	1	
自損行為	34	4	6	8	6	6	1	3
急病	1,436	206	230	213	181	189	214	203
その他	268	36	35	28	45	41	44	39

## 収容所要時間別搬送人員

(平成21年中)

時間 事故種別	急病	交通事故	一般負傷	その他	合計
10分未満	1				1
10分以上 20分未満	175	48	65	55	343
20分以上 30分未満	776 (12)	128 (2)	164 (1)	122 (24)	1,190 (39)
30分以上 60分未満	439 (77)	100 (6)	96 (14)	129 (84)	764 (181)
60分以上 120分未満	44 (29)	31 (8)	8	58 (54)	141 (91)
120分以上	1 (1)	4		4 (4)	9 (5)
合計	1,436 (119)	311 (16)	333 (15)	368 (166)	2,448 (316)

( )内の数字は、管外搬送

# 医療機関別搬送人員

(平成21年中)

事故種別 医療機関名	合計	急病	交通事故	一般負傷	その他
市立千歳市民病院	709	405	92	102	110
千歳第一病院	531	273	112	103	43
北星病院	125	52	28	33	12
千歳豊友会病院	334	228	37	46	23
千歳脳神経外科医院	6	5	0	0	1
伊勢内科小児科クリニック	84	81	0	2	1
井川医院	169	168	0	0	1
尾谷病院	86	82	0	0	4
藤原整形外科医院	62	2	24	29	7
恵聖会クリニック	6	5	0	1	0
千歳病院	7	7	0	0	0
上記以外の市内医療機関	12	9	1	2	0
千歳市内その他の場所	5	0	2	0	3
恵庭市内医療機関	135	68	13	13	41
札幌市内医療機関	127	32	1	2	92
苫小牧市内医療機関	43	16	1	0	26
その他の市町	7	3	0	0	4
合計	2,448	1,436	311	333	368

網掛けは救急告示医療機関

「千歳市内その他の場所」とはドクターヘリ等への中継など

# 医療機関別転院搬送件数

(平成21年中)

搬送先 依頼元	合計	札幌市	恵庭市	小樽市	苫小牧市	千歳市内	その他
市立千歳市民病院	88	58	6		21		3
千歳第一病院	48	13	5		1	25	4
北星病院	9	1	2			4	2
千歳豊友会病院	22	8	5		1	8	
矢尾外科胃腸科医院	3		3				
尾谷病院	18	2	2		2	12	
伊勢内科小児科クリニック	21	2	2			17	
千歳桂病院	3					3	
千歳病院	8		1			7	
千歳脳神経外科	1					1	
空港クリニック	8	1			1	6	
井川医院	20	5	2			13	
北斗内科	1					1	
千歳循環器クリニック	4		2			2	
向陽台病院	3		1			2	
いがらし内科	3					3	
藤原整形外科医院	1					1	
たけやま腎・泌尿器科 クリニック	1		1				
ぬまくら内科	1					1	
加藤内科クリニック	3					3	
ありかど泌尿器科	1					1	
恵聖会クリニック	2					2	
高橋整形外科クリニック	0						
市内その他の場所	1		1				
合計	270	90	33	0	26	112	9

網掛けは救急告示医療機関

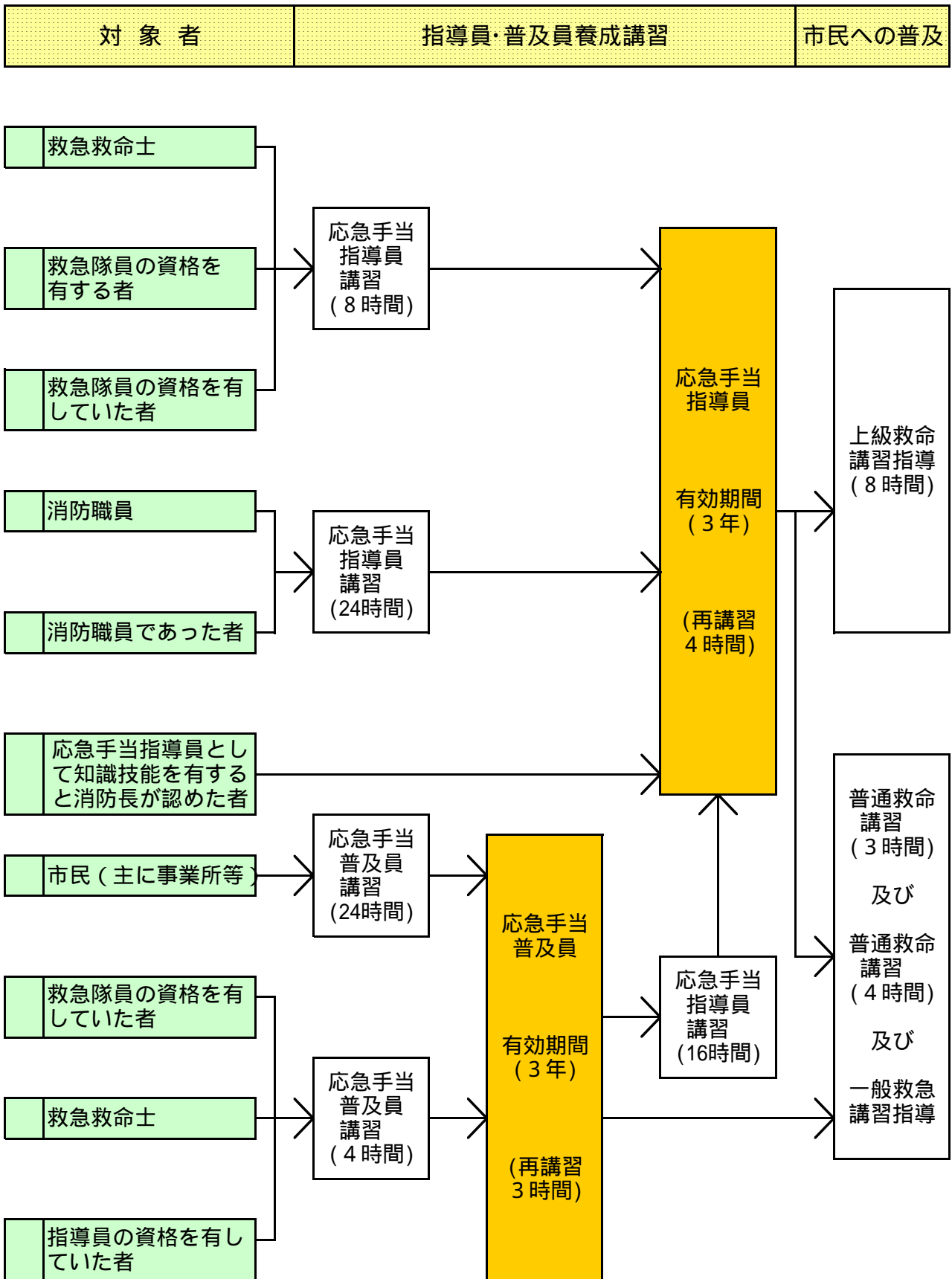


# 救急隊員実施の応急処置件数

(平成21年中)

事故種別 処置内容	急病	交通事故	一般負傷	その他	合計
対象人員	1,425	303	329	362	2,419
止血	8	6	35	7	56
固定	5	137	49	21	212
人工呼吸	8			4	12
心臓マッサージ (うち自動)					0 0
心肺蘇生 (うち自動)	55 (1)	3	4	9 (1)	71 (2)
酸素吸入	506	35	23	161	725
気道確保	98	8	7	14	127
1(用手)	(59)	(5)	(2)	(6)	(72)
2(経鼻エアウェイ)					0
3(喉頭鏡・鉗子での異物除去)			(1)		(1)
4(ラリングアルチューブ等)	(39)	(3)	(4)	(6)	(52)
5(気管挿管)				(2)	(2)
保温	538	64	86	128	816
被覆	8	50	89	30	177
在宅療法	4				4
A(在宅栄養管理等の点滴処置)					0
B(人口肛門等の処置)	(2)				(2)
C(A・B以外の処置)	(2)				(2)
ショックパンツによる血圧保持					0
除細動	6				6
静脈路確保	20	1	3	5	29
薬剤投与	10	1	1	2	14
その他の応急処置	518	45	57	110	730
血圧測定	1,298	273	295	331	2,197
聴診器による聴取	347	40	27	50	464
血中酸素飽和度	1,369	296	320	352	2,337
心電図 (うち伝送)	685	19	31	149	884 0
応急措置件数合計	5,483	978	1,027	1,373	8,861

# 応急手当普及啓発体系



## 受講対象別応急手当普及啓発活動状況

(平成21年中)

講 習 対 象		一般救急講習	普通救命講習	普通救命講習	普及員養成講習		指導員養成講習			上級救命講習
消 防 職 員	回数		1				1		1	
	人員		3				3		1	
消 防 団 員	回数		1							
	人員		9							
事 業 所 等	回数	32	27	5						2
	人員	947	352	27						13
町 内 会 等	回数	5	5							
	人員	182	111							
自 主 防 災 組 織	回数	1					1			
	人員	35					1			
学 校 関 係	回数	2	19	5						
	人員	56	621	10						
団 体 ・ グ ル ー プ	回数	9	5	1						
	人員	174	111	6						
そ の 他	回数		3	5	2					3
	人員		65	5	23					54
合 計	回数	49	61	16	2	0	2	0	1	5
	人員	1,394	1,272	48	23	0	4	0	1	67

## 年別応急手当普及啓発活動状況

(各年1月1日～12月31日)

区 分	一般救急講習		普通救急講習 ( ・ )		普及員養成講習		指導員養成講習		上級救命講習	
	回 数	人 員	回 数	人 員	回 数	人 員	回 数	人 員	回 数	人 員
平成17年	37	970	57	1,049	1	26	4	6	3	43
平成18年	49	1,350	75	1,317	3	20	2	2	5	76
平成19年	56	2,010	81	1,341	3	26	3	6	5	65
平成20年	45	1,532	78	1,117	1	11	5	6	4	60
平成21年	49	1,394	77	1,320	2	23	3	5	5	67
合 計	236	7,256	368	6,144	10	106	17	25	22	311

## 月別救助出動状況

(平成21年中)

月 事故種別	総数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
総数	40	5	3	5	1	1	3	4	2	3	3	4	6
火災	3		1							1			1
交通事故	23	3	2	3		1	2	2	1	1	2	2	4
水難事故	8	2		1			1		1	1		2	
自然災害	0												
機械等による事故	1										1		
建物事故	2			1									1
ガス及び酸欠事故	0												
爆発事故	0												
その他の事故	3				1			2					
出動車両台数	140	16	9	15	3	3	10	21	6	13	9	13	22
活動件数	25	4	2	3	1	1	1	3	1	3	1	1	4
出動人員	495	58	32	54	8	11	37	74	20	46	32	45	78

## 発生場所別救助出動状況

(平成21年中)

月 発生場所	総数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
総数	40	5	3	5	1	1	3	4	2	3	3	4	6
屋内	住居	4		1						1			2
	その他の屋内	2						1			1		
屋外	道路	3	1				1						1
	その他の道路	20	2	2	3		1	1	2	1	1	2	3
外	内水面	7	2		1		1		1	1		1	
	外水面	0											
	山岳	2				1		1					
	その他の屋外	2			1							1	
地下	0												
その他	0												

(単位：件数)

預防編

建築同意状況（計画通知含む）

（平成21年度）

種別 月	新 築		増 築		改 築		そ の 他		総 数	
	件数	面積（㎡）	件数	面積（㎡）	件数	面積（㎡）	件数	面積（㎡）	件数	面積（㎡）
総 数	147	51,482.31	12	7,251.04	0	0.00	34	593,723.86	193	652,457.21
4 月	19	4,684.49							19	4,684.49
5 月	11	3,543.52	1	34.34			8	146,754.49	20	150,332.35
6 月	11	8,611.80	1	622.49			1	274.92	13	9,509.21
7 月	15	5,576.89	2	4,256.30			4	984.26	21	10,817.45
8 月	16	4,554.54					4	143,954.75	20	148,509.29
9 月	15	3,542.53					1	486.62	16	4,029.15
10 月	12	2,420.78					6	605.22	18	3,026.00
11 月	9	1,593.84	1	6.35			1	294,759.09	11	296,359.28
12 月	13	7,224.26	3	995.63			6	1,017.61	22	9,237.50
1 月	8	814.76	1	478.37					9	1,293.13
2 月	5	7,219.86	2	149.73			1	629.69	8	7,999.28
3 月	13	1,695.04	1	707.83			2	4,257.21	16	6,660.08

過去5年間の年度別建築同意事務（計画通知含む）

年度 区分	17	18	19	20	21
件 数	214	214	151	148	193
面積（㎡）	93,467.46	130,269.17	212,284.90	144,585.54	652,457.21

## 町名別建築同意状況（計画通知含む）

（平成21年度）

町名別	件数	面積（㎡）	町名別	件数	面積（㎡）
本町	5	1,571.58	北栄	3	534.42
東雲町	6	1,738.44	新富	6	1,830.23
朝日町	5	969.66	信濃	4	2,224.74
清水町	7	133.74	清流	5	1,256.44
幸町	3	227.24	幸福		
千代田町	2	106.45	北斗	6	2,270.51
栄町	5	331.36	自由ヶ丘		
錦町	4	1,248.05	桜木	1	112.10
春日町	5	2,806.90	富士	4	1,256.80
緑町	5	5,938.85	長都駅前	1	178.86
大和	2	538.57	北信濃	10	2,744.87
桂木			上長都	16	1,257.34
真々地			若草		
真町			白樺		
末広	8	1,720.94	里美	1	1,118.84
青葉	2	272.60	柏陽	1	355.47
青葉丘			福住		
平和	11	7,260.40	文京		
蘭越			泉沢	6	1,731.26
住吉	2	1,242.64	中央	1	38.64
東郊	2	378.44	泉郷		
豊里	1	256.68	幌加		
梅ヶ丘	1	11.90	協和		
弥生	1	263.94	新川		
寿			東丘	5	1,886.54
旭ヶ丘			長都	1	9.90
日の出	1	274.92	釜加		
日の出丘			都	1	9.97
流通	2	898.70	美々	12	581,876.20
根志越	1	9.90	柏台	1	6,620.26
祝梅	3	792.26	柏台南	3	9,468.14
花園	4	1,309.29	駒里	2	249.62
高台	1	347.84	支笏湖温泉		
稲穂	1	280.26	幌美内		
富丘			モラップ		
あずさ	1	209.18	美笛		
北光	2	1,715.15	紋別岳山頂		
北陽			新星		
勇舞	10	2,570.18			
			総数	193	652,457.21

消防法施行令別表第1の同意状況（計画通知含む）

（各年度中）

年 度		17	18	19	20	21	
項 目							
総 数		180	182	136	114	158	
1項	イ	劇場・映画館等					
	ロ	公会堂・集会場	3	1	3	1	6
2項	イ	キャバレー・ナイトクラブ等					
	ロ	遊技場・ダンスホール				2	
	ハ	性風俗関連特殊営業を営む店舗等					
	ニ	カラオケボックス等					
3項	イ	待合・料理店					
	ロ	飲食店	7	7	4	1	3
4項	百貨店・マーケット		10	19	10	11	1
5項	イ	旅館・ホテル	2		4	1	
	ロ	寄宿舍・共同住宅	77	75	43	31	40
6項	イ	病院・診療所等	3	3		4	
	ロ	老人短期入所施設等	7	7	4	2	
	ハ	老人デイサービスセンター等					2
	ニ	幼稚園・特別支援学校					
7項	学 校			1	3		
8項	図書館・美術館						
9項	イ	蒸気浴場・熱気浴場					
	ロ	公衆浴場					1
10項	停 車 場 等				1		
11項	神社・寺院・教会			4		2	4
12項	イ	工場・作業場	20	25	23	11	5
	ロ	映画・テレビスタジオ					
13項	イ	自動車車庫・駐車場	4	1	5	4	2
	ロ	格納庫					
14項	倉 庫		13	7	5	11	22
15項	上記以外の事業場		27	23	23	27	60
16項	イ	複合用途（特定含む）	5	9	6	5	6
	ロ	複合用途（その他）	2		2	3	4
その他	住 宅		(32)	(30)	(15)	(34)	(35)
	そ の 他		(2)	(2)			



# 消防用設備等設置届出状況

(平成21年度)

分 類		月	総 数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
消 火 設 備	消 火 器		87	3	2	4	10	10	7	7	8	6	8	10	12
	屋内消火栓設備		11	1				3	1	1	2	1	1	1	
	スプリンクラー設備		19	2		2				1	3	2	2	1	6
	水噴霧消火設備		0												
	泡消火設備		1									1			
	不活性ガス消火設備		4					1			1	1		1	
	粉末消火設備		3						1		1				1
	屋外消火栓設備		2									1		1	
	動力消防ポンプ設備		1	1											
警 報 設 備	自動火災報知設備		106	6	9	8	4	8	8	8	12	10	12	7	14
	ガス漏れ火災警報設備		2	1							1				
	漏電火災警報器		0												
	火災通報装置		2	1											1
	非常警報設備		9	1		1		1	1	2	1			2	
	放送設備		17	1		1		1	1		2	2	5		4
	総合操作盤		1											1	
避 難 設 備	避 難 器 具		8	1		1	1			1	1		2		1
	誘導灯及び標識		115	6	7	5	8	10	11	7	14	7	10	15	15
消 防 用 水			4		1		1					1		1	
消 火 活 動 上 要 施 設	排 煙 設 備		7	1		1				1		1		1	2
	連結散水設備		0												
	連結送水管		4	1	1							1		1	
	非常コンセント設備		1											1	
	無線通信補助設備		0												

# 各種届出受理状況

(平成21年度)

区 分	件数	区 分	件数
防火・防災消防計画作成(変更)届出書	175	水素ガスを充てんする気球の設置届出書	0
防火・防災防火管理者選任(解任)届出書	150	消防活動上支障のある行為等の届出書	60
防火・防災消防訓練実施届出書	367	煙火の打上げ・仕掛け届出書	37
危険物保安監督者選任・解任届出書	7	催物開催届出書	15
圧縮ガス等の貯蔵・取扱開始(廃止)届出書	16	少量危険物の貯蔵・取扱届出書	100
防火対象物使用開始(変更)届出書	145	指定可燃物の貯蔵・取扱届出書	5
火を使用する設備等の設置(変更)届出書	49	その他の届出書	94
電気設備設置(変更)届出書	67		

# 対象物別査察指導状況

(平成21年度中)

項目	指導事項	対象物総数	実施対象物数	指 摘 事 項										
				計	消 火 設 備	警 報 設 備	避 難 設 備	施 消 防 活 動 上 必 要 な 設 置	等 の 管 理	避 難 上 必 要 な 施 設	防 火 管 理 責 務	防 災 処 理 関 係	市 条 例 関 係	届 出 関 係
総 数		4,771	745	1,036	134	100	97	4	42	74	83	184	286	32
1項	イ 劇場・映画館等	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ロ 公会堂・集会場	95	27	23	2	3	3	0	1	0	3	4	6	1
2項	イ キャバレー・ナイトクラブ等	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ロ 遊技場・ダンスホール	11	9	18	1	3	2	0	1	3	1	2	5	0
	ハ 性風俗関連特殊営業を営む店舗等	2	1	4	0	0	1	0	0	0	0	1	2	0
	ニ カラオケボックス等	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3項	イ 待合・料理店	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ロ 飲食店	160	27	137	17	16	23	1	2	6	14	16	40	2
4項	百貨店・マーケット	152	65	147	16	10	13	1	15	19	15	17	38	3
5項	イ 旅館・ホテル	34	31	40	2	6	6	1	2	6	9	5	3	0
	ロ 寄宿舍・共同住宅	1,824	58	27	3	1	0	0	0	0	0	10	9	4
6項	イ 病院・診療所等	56	24	38	5	5	4	0	0	3	7	7	7	0
	ロ 老人短期入所施設等	20	33	37	6	4	1	0	3	5	6	3	6	3
	ハ 老人デイサービスセンター等	38	23	32	4	2	1	0	1	1	8	4	11	0
	ニ 幼稚園・特別支援学校	12	7	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
7項	学 校	35	7	4	1	0	2	0	0	0	0	1	0	0
8項	図書館・美術館	3	2	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
9項	イ 蒸気浴場・熱気浴場	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ロ 公衆浴場	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
10項	停車場等	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
11項	神社・寺院・教会	34	8	16	0	1	1	0	0	4	0	6	4	0
12項	イ 工場・作業場	349	56	84	16	8	5	0	2	4	0	24	20	5
	ロ 映画・テレビスタジオ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
13項	イ 自動車車庫・駐車場	133	26	18	4	1	1	0	1	0	0	5	4	2
	ロ 格納庫	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
14項	倉 庫	417	79	45	10	10	3	0	1	1	0	7	13	0
15項	上記以外の事業場	724	164	108	11	3	4	1	4	4	0	26	51	4
16項	イ 複合用途(特定含む)	352	69	214	29	22	22	0	9	14	19	36	56	7
	ロ 複合用途(その他)	306	25	42	7	5	5	0	0	3	1	10	11	0
18項	ア ー ケ ー ド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

対象物数にあっては、平成22年3月31日現在

# 危険物施設分布状況

(平成22年4月1日現在)

施設 地域	総 数	製 造 所	屋 内 貯 蔵 所	屋 外 タンク 貯蔵所	屋 内 タンク 貯蔵所	地 下 タンク 貯蔵所	簡 易 タンク 貯蔵所	移 動 タンク 貯蔵所	屋 外 貯 蔵 所	第 二 種 販 売 取 扱 所	給 油 取 扱 所	一 般 取 扱 所
総数	875	2	87	81	10	339	2	132	11	1	98	112
東雲町	11					8		2			1	
朝日町	7					1		4			1	1
清水町・幸町	13				1	6					1	5
千代田町・栄町	21					15		2			1	3
本町	8					3		3			2	
錦町	7				1	2		1			3	
春日町・大和・緑町	8		1		1	5						1
真々地・真町	13			1		7					1	4
末広・花園	25			4		7		10			1	3
青葉・青葉丘・住吉	7					2		2			2	1
東郊・豊里	21					6		11		1	1	2
梅ヶ丘・弥生	4					2		1			1	
日の出・旭ヶ丘	8					2		3			2	1
流通・柏台・柏台南	14			1		6					6	1
清流・幸福	6					5					1	
根志越・都	8				1	3		3			1	
北栄	12				1	2		6			1	2
新富	11					7					3	1
信濃	14					4		7			3	
高台・富丘	11					8					1	2
北光・北陽	6					6						
あずさ	2					2						
北斗・自由ヶ丘	9			1		8						
富士	2				1	1						
長都駅前・勇舞	2							1				1
北信濃	49		9	5		20		3			4	8
上長都	86		17	7		36		9	1		7	9
長都・釜加	5			1		4						
中央・泉郷	5			1		1			1		2	
平和	25		2	5		8		8			2	
美々	61		3	1	3	22		11			12	9
駒里	31		1	5		14	2					9
向陽台地区	17			1		11					1	4
泉沢	66	2	15	8	1	21					4	15
桂木・蘭越	7					6					1	
東千歳地区	15			1		7					5	2
支笏湖地区	19		3			14					2	
航空自衛隊千歳基地	146		30	22		24		30	4		20	16
東千歳駐屯地	69		4	12		24		14	4		2	9
北千歳駐屯地	24		2	5		9		1	1		3	3

(単位：件数)

天  
女  
囑  
咐  
·  
協  
力  
團  
體

## 委嘱団体及び消防協力団体

(平成 22 年 4 月 1 日現在)

団 体 名	設 立 年 月 日	会 員 数
千 歳 市 防 火 委 員	昭和50年 7 月 1 日	委員数 70
千 歳 危 険 物 安 全 協 会	昭和48年 1 月25日	事業所 96
千 歳 石 油 燃 焼 機 器 協 議 会	昭和55年 7 月23日	事業所 27
千歳市少年消防クラブ育成連絡協議会	昭和53年10月11日	クラブ数 14
千 歳 市 幼 年 消 防 ク ラ ブ	昭和58年 7 月 4 日	クラブ数 18
千 歳 市 泉 郷 女 性 防 火 ク ラ ブ	昭和59年 2 月18日	会員数 16
千 歳 市 駒 里 女 性 防 火 ク ラ ブ	昭和60年 4 月29日	会員数 38

## 少年消防クラブ結成状況

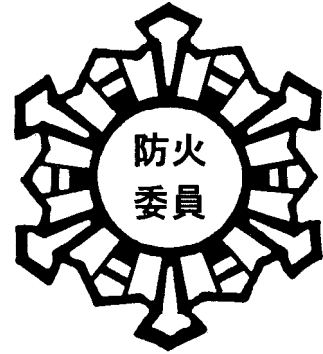
(平成 22 年 4 月 1 日現在)

ク ラ ブ 名 称	設 立 年 月 日	小 学 生	中 学 生	計
千歳市朝日町西少年消防クラブ	昭和40年10月 1 日	休 止 中		
千歳市清流少年消防クラブ	昭和52年 5 月 7 日	7	30	37
千歳市清水町少年消防クラブ	昭和52年 7 月24日	13	16	29
千歳市真々地少年消防クラブ	昭和52年 8 月20日	51	31	82
千歳市末広西少年消防クラブ	昭和52年 8 月21日	20		20
千歳市支笏湖少年消防クラブ	昭和52年 8 月27日	5	2	7
千歳市富丘少年消防クラブ	昭和52年10月30日	休 止 中		
千歳市住吉少年消防クラブ	昭和53年 8 月21日	12	20	32
千歳市若草少年消防クラブ	昭和56年 5 月31日	52	36	88
千歳市白樺少年少女消防クラブ	昭和58年 4 月24日	休 止 中		
千歳市東雲町少年少女消防クラブ	昭和59年12月16日	休 止 中		
千歳市末広東少年少女消防クラブ	昭和61年 3 月 2 日	18	14	32
千歳市豊里少年少女消防クラブ	平成 3 年 5 月18日	25	39	64
千歳市柏陽少年少女消防クラブ	平成 3 年 7 月21日	21	41	62
千歳市北栄東少年少女消防クラブ	平成 7 年 5 月 1 日	20	14	34
千歳市文京つばさ少年少女消防クラブ	平成 7 年 7 月 7 日	休 止 中		
千歳市自由ヶ丘子供消防クラブ	平成 8 年 4 月14日	84		84
千歳市寿少年少女消防クラブ	平成 9 年 3 月29日	14	73	87
千歳市稲穂少年少女消防クラブ	平成 9 年 4 月27日	43	15	58
合 計		385	331	716

## 千 歳 市 防 火 委 員

### （ 設 立 ）

昭和50年7月1日、火消し消防から予防消防への時代の変化とともに、住民の手によって自然に防火意識の向上が図られるように婦人防火委員が発足し、平成13年4月1日「千歳市女性防火委員」に、平成15年4月1日「千歳市防火委員」に名称を変更した。



### （ 目 的 ）

千歳市内におけるコミュニティー防火意識の核としての防火委員を通じて市民の自主的な防火意識の向上を図るとともに、一般家庭における防火体制づくりを推進し、もって市民生活の安全性を高め、明るい豊かな街づくりに寄与することを目的とする。

### （ 組 織 ）

千歳市内の各町内会から消防長の委嘱により当初10名で発足し、その後実践的活動及び防火意識の向上を図るため、現在70名で組織している。

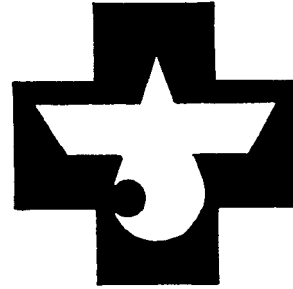
### （ 事業内容 ）

- 1 地域に対し火災予防の防火思想の普及に努める
- 2 家庭及び地域の安全対策に関する事項の推進
- 3 防火防災に関する訓練、研修会への参加
- 4 火災予防運動等の防火防災行事に参加

## 千歳危険物安全協会

### （設 立）

昭和48年1月25日、危険物施設の増大に伴う災害が全国各地で発生したため、危険物取扱事業所及び販売店等がお互いに協力しあって、災害を未然に防止するために設立した。



### （目 的）

危険物製造所等の位置、構造及び設備の維持管理を完全に行い、貯蔵取扱の適正に努め災害の絶無を期し、もって事業の繁栄と会員相互の親睦を図ることを目的とする。

### （組 織）

市内における危険物の製造所、貯蔵所、取扱所を設置している事業所及び販売店並びに団体等をもって構成し、96事業所で組織している。

### （事業内容）

- 1 防火情報の交換に関する事。
- 2 防火についての調査研究に関する事。
- 3 危険物取扱者の育成に関する事。
- 4 防火についての研究会、講習会の開催、視察研修に関する事。
- 5 優良会員等の表彰に関する事。
- 6 その他本会の目的達成のため必要と認める事。

## 千歳石油燃焼機器協議会

### （設 立）

昭和55年7月23日、石油燃焼機器の複雑多様化に伴う火災を防止するため、分解整備、点検、保守管理及び設置の業務を行っている事業所で千歳石油燃焼機器整備設置業協議会を設置し、平成13年5月1日千歳石油燃焼機器協議会に名称を変更した。



### （目 的）

点検、整備、設置等の技術の向上及び石油燃焼機器に起因する災害の予防並びに市民の安全を確保するため、防火思想の普及啓発に努めるとともに会員相互の親睦を図り、事業の発展と社会福祉の増進に寄与することを目的とする。

### （組 織）

市内における石油燃焼機器の点検整備設置等に関する熟練者を擁し、これらの事業を行っている事業所及びこれから事業所を開設しようとするものをもって構成し、27事業所で組織している。

### （事業内容）

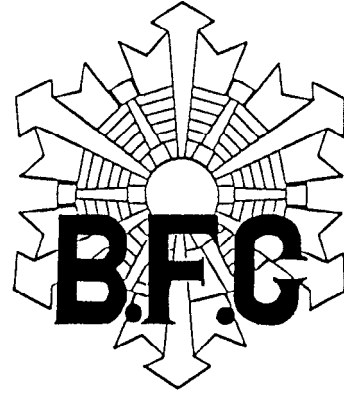
- 1 点検整備等の技術向上についての研修会及び講習会の開催に関する事項
- 2 防火思想の普及宣伝、その他の施策に関する事項
- 3 防火について、消防機関及び関係団体との連絡協調に関する事項
- 4 その他本会の目的達成のため必要な事項



## 千歳市少年消防クラブ育成連絡協議会

### （設 立）

昭和53年10月11日、市内各町内会単位で少年消防クラブが続々設立され、各クラブの育成と連絡を図るとともに意欲促進のためにも総括する必要ができたため、設立された。



### （目 的）

各少年クラブの運営について研究し、クラブの健全な育成発展に寄与することを目的とする。

### （組 織）

クラブの結成町内会々長、指導者代表及び父母代表をもって構成する。

### （事業内容）

- 1 クラブの情報の収集及び交換に関する事。
- 2 クラブの育成、運営の研究に関する事。
- 3 クラブの大会に関する事。
- 4 B F C 新聞の配布に関する事。
- 5 教養資料等の編さん及び配布に関する事。
- 6 クラブ及びクラブ指導者の表彰に関する事。
- 7 その他本会の目的達成のため必要と認める事。

## 幼 年 消 防 ク ラ ブ

### ( 目 的 )

市内における幼稚園、保育園等の児童を対象に幼いころから社会活動、集団活動を通して自主協調と正しい社会的態度を養うとともに、火災の恐ろしさを学び、火災を未然に防ぐための組織をつくりだすことにより、幼年期に防火教育を身につけさせることを目的に結成する。

現在、市内には幼稚園が10カ所、保育所等が8カ所あり、その全施設においてクラブが結成され、2,604人のクラブ員が火災のない明るい町づくりに協力しています。

### 各幼年消防クラブ結成状況

(平成22年4月1日現在)

クラブ名称	設立年月日	会員数
千歳青葉幼稚園幼年消防クラブ	昭和58年7月4日	97
メリー幼稚園幼年消防クラブ	昭和58年11月7日	227
第二メリー幼稚園幼年消防クラブ	昭和58年11月7日	293
くるみ幼稚園幼年消防クラブ	昭和59年4月23日	228
住吉保育園幼年消防クラブ	昭和59年4月25日	93
千歳わかば幼稚園幼年消防クラブ	昭和59年5月2日	99
千歳幼稚園幼年消防クラブ	昭和59年5月7日	88
北斗保育園幼年消防クラブ	昭和59年5月9日	97
千歳第2幼稚園幼年消防クラブ	昭和59年5月10日	130
千歳春日保育園幼年消防クラブ	昭和59年8月22日	97
末広保育所幼年消防クラブ	昭和59年8月22日	125
北栄保育所幼年消防クラブ	昭和59年8月22日	114
真々地保育所幼年消防クラブ	昭和59年8月22日	53
向陽台保育園幼年消防クラブ	昭和59年10月4日	71
千歳つくし幼稚園千歳つくし保育園幼年消防クラブ	昭和60年9月18日	323
向陽台つくし幼稚園幼年消防クラブ	平成3年9月4日	162
第2わかば幼稚園幼年消防クラブ	平成9年10月28日	206
アリス保育園幼年消防クラブ	平成11年7月14日	101
合 計		2,604

その他

# 千歳市防災学習交流センター 『そなえーる』

～ 防災都市「ちとせ」を目指して ～



千歳市では、災害対策基本法（昭和36年法律第223号）に基づき、「千歳市地域防災計画」を策定し、市域内で発生が予測される自然災害や事故災害から市民の生命、身体及び財産を守り、被害を最小限に抑えるため、防災体制の整備を進めています。

しかしながら、近年は気候変動や都市化現象等に伴い、災害が複雑・大規模化し、また災害対応も行政のみで行うことは不可能になっています。

このことから、市は現在、『安全・防災』を重点施策の一つに掲げ、市民と協働した「自助、共助、公助」による防災事業（対策）に取り組んでいます。その一環として「市民や防災関係機関が災害を学び、災害に対処するための訓練などを行う防災学習交流施設」の整備を行っています。

この防災学習交流施設の中核となる「千歳市防災学習交流センター “そなえーる”」が平成22年4月24日にオープンしました。

# 防災学習交流センター “そなえーる”

防災学習交流センター“そなえーる”は、千歳市全体の防災学習の拠点となる施設であり、市民や防災関係機関の意見をもとに設置したものです。

この施設は、「市民が災害を学ぶ・体験する・備える」をキーワードに設置したものであり、災害の擬似体験ができるだけでなく、防災講座や救急講習、自主防災組織等の研修事業、小中学生の防災教育など、防災学習の拠点として利用できるほか、消防や自衛隊など防災関係機関の各種訓練の場としても活用します。

また、大地震などで、市役所庁舎が使用できないような場合には、災害対策本部としても利用出来るようにしています。

市は、多くの市民や自主防災組織等が、この施設を有効に活用することにより、「災害に強いひとづくり・まちづくり」を目指します。

## 施設の利用形態

災害学習や擬似体験施設の利用及び防災に関する事業の実施については無料で開放します。

また、防災事業で使用されていない時間については、施設内の「会議室」や「屋内訓練室」、屋外の「防災訓練広場」などをコミュニティ活動の場として有料で利用することができます。

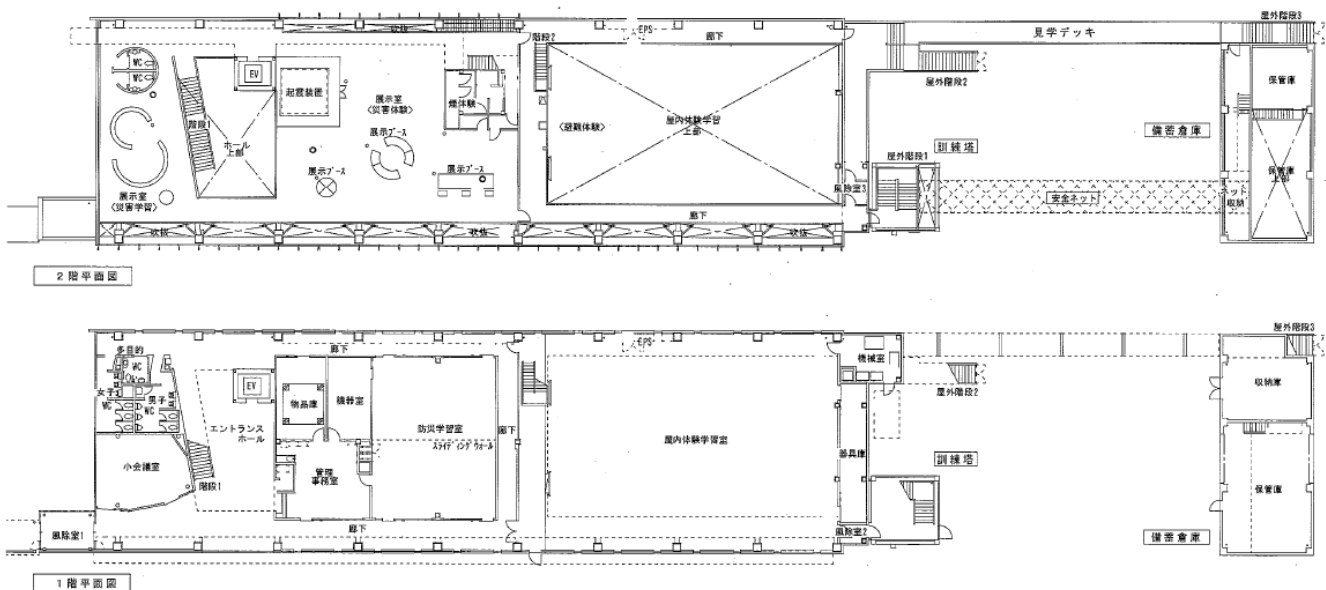
## 施設の概要

### 規模・構造

“そなえーる”は鉄骨造、地上3階建て、延べ床面積は、2,037.19㎡(約617坪)で、屋外の防災訓練広場は約24,000㎡です。

### 施設構成

災害擬似体験施設や展示スペースを2階に、1階には会議室や屋内訓練室を配置しています。そのほか、高さ20mの訓練塔や見学デッキ、副訓練塔を兼ねた防災備蓄倉庫を整備しています。



## 展示施設紹介

主な展示施設をご紹介します。

### 地震体験コーナー

震度1から7までの揺れを体験できるのはもちろん、阪神・淡路大震災や、新潟中越地震など、過去に起きた8種類の大地震の揺れを実際に体験することができます。



### 煙避難体験コーナー

火災時に発生する煙をリアルに再現し、煙の特性や危険性を学び、視界のきかない煙の中で避難行動を体験することができます。(こちらで使用する煙は身体に無害ですのでご安心ください。)



### 通報体験コーナー

ディスプレイに表示される火災や救急の緊急事態のアニメーション映像と、受話器から聞こえる消防署員の問いかけに答え、緊急事態に遭遇した場合の119番通報を擬似体験できます。



## 予防実験コーナー

実験装置を利用して、天ぷら油やコンセントからの発火現象を見ながら、火災の原因を学習することができます。



## 避難器具体験コーナー

「救助袋」、「避難はしご」など、ホテルやマンションに実際に設置されている避難器具を展示しています。

## 施設の利用案内

住 所 〒066-0075 千歳市北信濃631-11  
電 話 0123-26-9991  
F A X 0123-26-9992  
E mail sonaeru@city.chitose.hokkaido.jp  
駐 車 場 127台  
開館時間 災害擬似体験・展示施設（無料） 午前10時～午後5時  
会議室・屋内訓練室等（有料） 午前10時～午後9時  
休 館 日 月曜日・毎月の最終火曜日・年末年始  
交 通 最寄のバス停  
中央バス「フードD前」・「あずさ3丁目前」



---

---

# 消 防 年 報

(平成22年版)

発行・編集 千 歳 市 消 防 本 部 総 務 課

〒066-0042 北海道千歳市東雲町4丁目1番地の7

< TEL > 総務課 0 1 2 3 2 3 - 5 3 1 2

主 幹 " 2 6 - 1 6 0 0

警防課 " 2 3 - 0 3 2 0

予防課 " 2 3 - 0 4 2 0

消防署 " 2 3 - 3 0 6 2

< FAX > " 2 2 - 8 8 5 0

ホームページ <http://www.city.chitose.hokkaido.jp/>

メールアドレス [shobosomu@city.chitose.hokkaido.jp](mailto:shobosomu@city.chitose.hokkaido.jp)

発行年月 平成22年 6月

---

---